

令和3年度第2回県南広域振興圏地域協働委員会議

日 時：令和3年11月26日（金）13：30～15：30
場 所：奥州地区合同庁舎分庁舎3階大会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

令和3年度第2四半期までの重点施策の進捗状況及び令和4年度の重点施策の取組方針について

4 その他

5 閉 会

<資料>

- 【No.1】令和3年度県南広域振興圏業務方針進捗状況調書（第2四半期まで）（概要版）
- 【No.2】令和3年度県南広域振興圏業務方針進捗状況調書（第2四半期まで）
- 【No.3】令和4年度県南広域振興圏の取組方針（案）
- 【No.4】令和3年度第1回県南広域振興圏地域協働委員会議での委員の意見に対する対応状況等

出席者名簿

【地域協働委員】

基本方向	氏名	分野	市町	所属等	備考
I	佐々木 裕	健康づくり 医療・福祉 子育て	奥州市	株式会社ケアサービスゆたか代表取締役、社会福祉法人優愛会理事 岩手県介護支援専門員協会副会長、胆江地区介護支援専門員協議会副会長	
I	小笠原 隆	健康づくり 医療・福祉 子育て	金ケ崎町	社会福祉法人フレンドシップいわて 障害者支援施設虹の家施設長兼管理者 共同生活援助グループホームなないろ 管理者 放課後等デイサービス虹の家管理者 一般社団法人岩手県社会福祉士会理事	
I	小野寺 真澄	環境保全 社会資本整備 防災・減災	一関市	ニッコー・ファインメック株式会社 代表取締役社長	欠席
I	佐賀 忠臣	環境保全 社会資本整備 防災・減災	花巻市	株式会社佐賀建設 代表取締役 岩手県建設業協会青年部連絡協議会 副会長	欠席
I	千葉 稔	環境保全 社会資本整備 防災・減災	奥州市	奥州市防災士会「絆」 会長 岩手県地域防災サポーター	
I	岩隈 大樹	まちづくり 地域コミュニティ 移住定住	金ケ崎町	合同会社いと・をかし代表社員 古民家交流空間「永-TOKOSHIE」オーナー 元金ケ崎町地域おこし協力隊	欠席
I	藤原 朝子	まちづくり 地域コミュニティ 移住定住	西和賀町	西和賀町産業公社企画課係長	欠席
II	佐々木 優弥	ものづくり産業 伝統産業	平泉町	有限会社翁知屋 代表取締役 いわて県南エリア伝統工芸協議会 理事	欠席
II	新宮 由紀子	ものづくり産業 伝統産業	一関市	株式会社長島製作所 代表取締役社長 いわて自動車関連産業集積促進協議会 幹事	欠席
II	小野 仁志	雇用確保 労働環境整備	平泉町	いちのせき若者サポートステーション センター長、統括コーディネーター 特定非営利活動法人レスパイトハウス・ハンズ	
II	堀内 恵樹	雇用確保 労働環境整備	奥州市	プラザイン水沢（株式会社プラザ企画） 支配人 県南広域振興局キャリア教育サポーター	
III	長屋 あゆみ	観光・スポーツ	北上市	NPO法人フォルダ 理事長 スポーツリンク北上 理事 岩手県スポーツ推進審議会委員	
III	南洞 法玲	観光・スポーツ	平泉町	毛越寺 総務次長	
III	高見 章子	食産業	花巻市	株式会社エーデルワイン総務部長兼ワインシャトー大迫店長	
III	大内 友規	文化芸術	奥州市	前沢商工会 主任 前沢ふれあいセンター	欠席
IV	桶田 陽子	農業	遠野市	農事組合法人宮守川上流生産組合 副組合長兼農産物加工部長	欠席
IV	佐々木 勝志	農業	花巻市	有限会社佐々木農園 代表取締役 岩手県農業法人協会 副会長	
IV	安倍 和明	林業	奥州市	明和フォレストック(株) 代表取締役	
公募	千葉 哲夫	公募	一関市	いわいの里ガイドの会 会員	

(敬称略)

【県南広域振興局】

No.	氏名	職名
1	佐々木 隆	局長
2	浅沼 秀行	副局長
3	菅原 健司	副局長
4	高橋 浩進	副局長兼農政部長
5	佐藤 朝則	経営企画部長
6	熊谷 郁夫	特命参事兼産業振興室長兼産業振興課長
7	奥寺 敦哉	参事兼総務部長
8	千葉 政則	県税部長
9	小川 修	参事兼保健福祉環境部長
10	及川 竜一	林務部長
11	佐藤 秀和	土木部調整課長
12	木戸口 豊武美	花巻総務センター所長
13	藤原 典光	一関総務センター所長

I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域

1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります [順調2項目、遅れ5項目]
 (健康づくりの推進、スポーツへの参加機運醸成、地域医療の確保、医療と介護等の連携、障がい者支援、結婚支援、子育てしやすい環境整備)

【主な取組の進捗状況】

- ・ スポーツへの参加機運醸成、障がい者支援については順調に取組を進めている。
- ・ 健康づくりの推進、地域医療の確保、医療と介護等の連携、結婚支援、子育てしやすい環境整備については、新型コロナウイルスの影響により、会議や研修会等が中止・延期となるなど遅れが生じている。

2 快適で安全・安心な生活環境をつくります [順調9項目、遅れ1項目]
 (環境保全の推進、野生鳥獣等の保護管理、動物との共生社会の実現、安全で安心な生活環境の確保、防災・減災対策)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 環境保全の推進、野生鳥獣等の保護管理、動物との共生社会の実現、安全で安心な生活環境の確保については順調に取組を進めている。
- ・ 防災・減災対策については、新型コロナウイルスの影響により、鳥インフルエンザ等の研修会等が延期になるなど遅れが生じている。

3 一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります [順調3項目、遅れ0項目]
 (I L C関係者等の受入環境整備、地域コミュニティづくり、移住定住の促進)

【主な取組の進捗状況】

- ・ I L C関係者等の受入環境整備、地域コミュニティづくり、移住定住の促進について、I L Cセミナーや、関係人口創出に係るワークショップや、南いわて暮らしセミナーの開催等、オンラインの活用等により順調に取組を進めている。

III 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域

6 地域の魅力の発信による交流を広げます [順調3項目、遅れ2項目]
 (観光振興による交流拡大、おもてなしの向上、海外との相互交流の推進、スポーツツーリズムの振興、道路整備の推進)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 海外との相互交流の推進、スポーツツーリズムの振興、道路整備の推進については順調に取組を進めている。
- ・ 広域観光の促進やおもてなしの向上の取組については、新型コロナウイルスの影響により、事業が中断となるなど遅れが生じており、一部事業内容を見直すなどにより取組を進めている。

7 食産業のネットワークを活用し、交流人口の拡大を図ります [順調3項目、遅れ0項目]
 (食による交流人口の拡大、国内外への取引拡大、企業競争力の向上の推進)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 地域食材を生かした魅力的な地域づくりや取引拡大等の推進に向けて、地産地消レストランフェアの開催準備や物流ルート構築実証実験の実施、H A C C Pワークショップの開催支援等順調に取組を進めている。

8 文化芸術を生かした地域づくりを進めます [順調3項目、遅れ0項目]
 (伝統文化等の魅力発信、文化芸術と触れ合う機会の創出、文化財等の魅力を伝える人材の育成)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 平泉の理念と魅力の普及に向けた紙芝居動画の公開や、文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催、観光ガイド等のスキルアップ研修会の開催準備など、オンライン等を活用した開催方法の工夫などにより順調に取組を進めている。

II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域

4 ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます [順調1項目、遅れ3項目]
 (地域企業の技術力・生産性向上の支援、新技術を活用した取組の支援、伝統産業の魅力発信、道路整備の推進)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 道路整備の推進については、順調に取組を進めている。
- ・ 地域企業の技術力・生産性向上の支援、新技術を活用した取組の支援、伝統産業の魅力発信について、新型コロナウイルスの影響により、研修会やイベント等が中止・延期となるほか、アドバイザーによる企業訪問回数が減少するなど遅れが生じているが、引き続き感染対策に留意しながら取組を進めていく。

5 ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します [順調4項目、遅れ1項目]
 (地元企業の魅力向上、若者の地元志向の醸成、企業を支える人材の育成、移住定住の促進(再掲))

【主な取組の進捗状況】

- ・ 地元企業の魅力向上、若者の地元志向の醸成、地域企業の理解促進については順調に取組を進めている。
- ・ 企業を支える人材の育成について、新型コロナウイルスの影響により、企業向け研修の開催が中止・延期になるなど遅れが生じている。

IV 米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域

9 企業的経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます [順調6項目、遅れ0項目]
 (企業的経営体の育成、米・園芸産地の育成・強化、畜産経営の生産性向上、農畜産物のブランド化、農村地域の保全・活性化)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 生産基盤の整備、農地の集積・集約化、新規就農者の確保の取組、県オリジナル新品種の生産販売・流通体制の構築支援や、農畜連携による労働力確保の取組、農畜産物のブランド化や6次産業化などに向けた、個別指導や相談会の開催等、順調に取組を進めている。

(R2.12大雪被害、R3.4凍霜害及びR3.6降雹害への対応)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 大雪で被災した農業者に対し、被災農業者緊急支援事業による支援を進めている。間もなく積雪期となること、各種資材費が値上がりしていることから、計画的に事業を進めるよう指導を強化している。
- ・ 果樹の凍霜害、降雹害への対応として、関係機関と連携し、農作物災害復旧対策事業の要望調査を進めている。

10 森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します [順調5項目、遅れ0項目]
 (担い手の育成・確保、I C Tの導入用による林業経営の効率化、木材の安定供給、特用林産物の産地再生・生産振興)

【主な取組の進捗状況】

- ・ 担い手の育成・確保、I C Tの導入用による林業経営の効率化、木材の安定供給、特用林産物の産地再生・生産振興に向けて、アカマツ100%活用促進事業の実施や、出張おもちゃ美術館の開催や林間畑わさびの栽培に係る初心者向け講習会の開催等、順調に取組を進めている。

令和3年度 県南広域振興圏業務方針進捗状況調書 (第2四半期)

重点施策	頁
1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	1
2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	5
3 一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	9
4 ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます	11
5 ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	12
6 地域の魅力の発信による交流を広げます	15
7 食産業のネットワークを活用し、交流人口の拡大を図ります	18
8 文化芸術を生かした地域づくりを進めます	20
9 企業的経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	21
10 森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します	26

令和3年11月

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	重点施策	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります		
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)	
	①	がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数〔10万人当たり〕(人)	[男性]	297.4人	273.9人	
	①	がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数〔10万人当たり〕(人)	[女性]	152.4人	134.0人	
	②	自殺者数〔10万人当たり〕(人)		21.5人	18.5人	
	③	訪問診療を受けた患者数(人口10万人当たり：レセプト件数ベース)(件)		2,998.3件	3,037.9件	
	④	要介護・要支援の認定を受けていない高齢者の割合(全国を100とした水準)(%)		98.17%	98.29%	
	⑤	グループホームの利用者数(人)		640人	720人	
⑥	「いわて子育てにやさしい企業等」認証件数(累計)		39件	119件		

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
① 事業所等と連携したこの健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県脳卒中予防県民会議の会員数〔累計〕：目標118団体 肥満傾向にある子供の割合(小学5年生)：目標10.84% 肥満傾向にある子供の割合(中学2年生)：目標10.54% メンタルヘルス人材育成のための研修会等の参加者数〔累計〕：目標2,461人 	<p>(1) 生活習慣病の発症予防やメンタルヘルスケアの向上に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スーパーマーケットと共働した健康的な食生活の「見える化」の推進 ○事業所を対象とした生活習慣の改善につながる健康づくり出前講座の実施 <p>(2) 特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率の向上に向けた取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○血管年齢計を活用した働き盛りの健康度「見える化」事業 <ul style="list-style-type: none"> ・参加継続型出前講座(5事業所3回) ⇒変更：1事業所に歩数計と血管年齢計を貸出、講座1回を開催 ・事業所出前講座での血管年齢測定 <p>(3) 若年期からの健康づくりに関する良好な環境づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定給食施設への指導 ○保育園・学校等への出前講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ⇒周知を中止し、希望があれば随時対応 ○保育園での運動習慣定着事業(奥州) <ul style="list-style-type: none"> 歩数計活用による運動の推進 ⇒昨年度実施した保育園への歩数計貸出に変更 <p>(4) 自殺対策に向けた総合的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自殺対策推進の連絡会及び研修会の開催 ○事業所出前講座の開催及びゲートキーパー養成 ○自殺予防の普及啓発、相談窓口情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて減塩・適塩の日キャンペーン」に合わせ、健康的な食生活実践のための媒体を配架・配布(奥州：3店舗、一関：保健所来所者に配布、中部：選定のためのアンケート調査実施(36施設)) 健康づくり出前講座の実施：7事業所(9回)185人(中部：1事業所8人、奥州：3事業所47人、一関：3事業所(5回)130人)、生活習慣改善に関するアンケート実施(奥州：9月47人) 血管年齢計を活用した出前講座の実施：2事業所63人(奥州：1事業所20人、一関：1事業所43人) 参加継続型出前講座(奥州)：1事業所18人 <p>【中止事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部：職場での健康推進取組好事例の収集 一関：健康経営に取り組む事業所の事例収集・HPでの紹介 <ul style="list-style-type: none"> 特定給食施設立入・指導の実施：10施設(学校：8施設、児童福祉施設：2施設) 出前講座：中止 保育園運動習慣定着事業：歩数計貸出 2施設 連絡会開催 1回(奥州：1回) 事業所出前講座及びゲートキーパー養成：8回203人(中部：1回8人、奥州：3回47人、一関：4回148人) 新型コロナ関連&心の相談窓口チラシ作成・配付 心の相談の実施 <ul style="list-style-type: none"> 専門医相談：16回30件 保健師による相談：電話593件(中部：318件、奥州：236件、一関：39件)、面接：71件(中部：19件、奥州：37件、一関：21件)、訪問97件(中部：35件、奥州：37件、一関：21件) 	<p>【進捗状況】遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症発生対応により集団を対象にした取組は縮小及び延期 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染状況により出前講座の周知、実施について検討が必要 健康づくり情報や自殺対策に係る相談窓口情報の発信、普及啓発方法の引き続きの検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月28日の「いわて減塩・適塩の日」に併せ協力店舗に健康的な食生活実践のための媒体を掲出(新型コロナ発生時は中止) 出前講座は、11月まで実施予定 経営企画部と連携し、アプリ活用の運動及び健康経営認定事業所の情報チラシを工業系企業等に配布(年1～2回、10月、1～2月) 事業所出前講座は、11月まで希望事業所に実施予定 参加継続型出前講座の評価とフィードバック(11月) 管内3保健所栄養士による特定給食施設指導検討(Web実施) 特定給食施設への立入・指導の実施(児童福祉施設：奥州8、一関22) 歩数計貸出による歩数計測の評価実施 自殺対策関係機関の実務者や市町担当者の連絡会開催予定：1回 事業所出前講座に併せたゲートキーパー養成研修の開催 自殺対策関係機関、スーパーマーケット等及び事業所訪問による自殺予防に関する情報の発信 心の相談の周知によるハイリスク者への対応

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
②地域と連携したスポーツへの参加機運の醸成	・スポーツ実施率(週1回以上のスポーツ実施率):目標64.5%	(1) 市町と連携したスポーツを通じた健康づくり情報発信によるスポーツへの参加機運の醸成 ○地域のスポーツ資源やアクティビティのHPや観光情報SNSでの情報発信 ○スポーツによる健康づくり情報を発信	・サイクリングインフォメーションのHP掲載とリーフレット配布(4月、50カ所) ・サイクリング・ウォーキングデジタルルートマップサイトによる情報発信(23コース) ・市町のスポーツアクティビティ情報を収集し、ラジオやSNSで発信 ・スポーツ&健康づくり情報のチラシ作成、保健所出前授業、工業クラブ等を通じて配布(9月末) ・スポーツ等連携実行委員会で、スポーツ実施率向上施策について市町と情報交換(8/25)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・スポーツ実施率が他世代に比べて低い30~50代(働き盛り世代)への更なる働きかけが必要	・市町のスポーツアクティビティ情報を収集し、県南局SNSやラジオ番組等での発信 ・保健福祉環境部と連携したスポーツによる健康づくり情報の発信(2月頃)
③地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の推進	・地域医療連携会議等の参加機関数:目標102機関 ・災害医療実地訓練等の実施回数:目標3回 ・感染症対策実地訓練など実施回数:目標3回	(1) 一連のサービスが切れ目なく、過不足なく提供される仕組みづくり ○各圏域での地域医療連携会議の開催 (2) 大規模災害を想定した災害医療訓練の実施 ○災害医療訓練の実施 (3) 新興感染症に対応するため、医療機関の受入れ等の体制整備や実地訓練などを実施 ○感染症対策会議の開催 ○感染症実地訓練等の実施	・地域医療連携会議 〈奥州〉病院長会議の開催(7/5) 開催延期:第1回連携会議(9/30) 〈中部〉医療法人中庸会による新規病院建設計画に係る調整 ・奥州市からの3圏域周産期医療圏連絡会議開催に対する調整 〈奥州・中部〉未実施 〈一関〉初動対応訓練実施(5/28) 連絡会議(書面)開催(8月) ・患者発生時対応及び検査・入院等の調整並びに連携に係る会議(3回)、医療機関等との随時打合せの実施 〈中部〉入院調整等医療体制打合せを随時 〈奥州〉感染症対策連絡会議:1回(4/26) 入院医療調整WEB会議:入院療養患者有期間中:毎日17:00~ 搬送関係打合せ:2回(4/30、8/2) 〈一関〉感染症対策連絡会議:1回(7/1) 地域医療関係者ブリーフィング:1回(8/2) 入院医療調整WEB会議:平日9:30~ ・患者搬送業務研修・PPE着脱訓練実施:20回(中部:4回、奥州:13回、一関:4回)	【進捗状況】 <u>遅れ</u> ・奥州市立病院・診療所改革プランに係る住民説明会延期により、連携会議開催は延期 ・一関を除く管内の災害医療訓練については、コロナ対応、ワクチン接種対応のため開催目途なし 【主な課題】 ・奥州市立病院・診療所改革プランの地元住民の理解を得ることが難航していること ・災害医療訓練の実施方法の変更・縮小・中止を検討 ・新規感染者、クラスターが多発した時の圏域内外の入院、搬送、連絡調整	・地域医療連携会議 〈奥州〉第1回会議(12/2)、第2回会議(2月)開催予定 〈花巻〉第1回会議(10月)書面開催予定 〈一関〉第1回会議(1月~2月)開催予定 ・3圏域周産期医療圏連絡会議の開催検討(年度後半) 〈奥州〉縮小若しくは中止を検討 〈花巻〉連絡会議、伝達訓練を実施予定 〈一関〉訓練(10月) ・第6波に備え、医療体制や関係者の連携に係る連絡会議の開催(必要時) ・入院調整等医療体制WEBミーティングの実施 ・PPE着脱や患者搬送等に係る訓練・研修の実施
④地域包括ケアシステムの構築	・居宅サービス・地域密着型サービスの利用割合:目標66.4%	(1) 地域包括ケアシステムの構築や、情報通信技術(ICT)の活用による医療機関や介護事業所との情報共有及び相互連携に向けた取組の支援 ○市町が主催する在宅医療介護連携会議等への出席 ・花巻市、北上市、奥州市、一関市、金ケ崎町、平泉町 ○管内地域包括ケア担当者連絡調整会議の開催(1月)	・在宅医療介護連携会議等への出席状況 〈一関〉平泉町(5月書面)、一関市(6月書面) 〈中部〉北上市(7/8欠席)、花巻市(7/28欠席) 〈奥州〉奥州市(9/27出席) ※欠席会議の資料は、収集済 ・連絡調整会議の開催方法を検討	【進捗状況】 <u>遅れ</u> ・会議参加は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ見合わせ ・欠席会議については、資料提供を受け情報収集を継続 【主な課題】 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた会議への出席対応が必要	・金ケ崎町の在宅医療連携会議への出席(年明け以降) ・市町主催会議等は、案内があった場合には出席(ただし、感染状況によって出欠検討) ・連絡調整会議は、1月書面により開催予定

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
⑤ 障がい者の自立活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者就労継続支援事業所(B型)の工賃：目標21,284円/月 	<p>(1) 障がい者への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がい者が中尊寺・月見坂を車いすで登る体験会の実施 ○障がい者理解出前授業の実施 <p>(2) 市町の自立支援協議会等の取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各市町の自立支援協議会等への出席 <p>(3) 障がい者の経済的自立(工賃向上)への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共同販売会・販路拡大等の取組支援 <ul style="list-style-type: none"> ・庁舎内での事業所販売会の開催支援 ・ハート購入の促進 ○農福連携の推進(本局) <ul style="list-style-type: none"> ・マッチング支援 ・農作業見学会、農作業実証の開催 ・マッチング成立後の活動状況検証 ・事業者、農業者向け研修会の開催 ・取組報告会の開催 ・農福連携関係者会議の開催 ・実務担当者打合せ会出席 	<ul style="list-style-type: none"> 平泉町社会福祉協議会主催で開催決定 →開催支援に向け連絡調整していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 出前授業(一関)：7～9月小学校5校 各市町の自立支援協議会に出席し、協議、助言を実施 <ul style="list-style-type: none"> 奥州市：親会(1回)、その他4部会等(14回) 金ケ崎町：親会、就労部会(未定) 花巻市：親会(1回)、就労部会(2回) 北上市：親会(1回) 一関地区：親会(1回)、運営委員会(1回)、その他3部会(4回) ※一関地区(一関市、平泉町合同開催) 合庁内での事業所によるパン類等販売会支援及び庁内放送による職員へのお知らせ パン類等販売会(本局)6回(1事業所) (花巻)6回(1事業所) (一関)36回(3事業所) 各所属でのハート購入の取組 購入件数 3件(本局2件、花巻1件) R2の工賃実績、ハート購入取扱品目調査及び農福連携調査の実施(7月) 9月末現在：新規契約5件 継続契約8事業所13件(北上含む) 農作業見学会・体験会3回(個別開催) 農作業初回等確認3回 農作業検証会1回 事業所訪問1回 契約の立合1回 実務担当者打合せ会(2回) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の体験会開催に向けた主催者(平泉町社協)との協議 出前授業(一関)の実施：10月小学校2校 各市町の自立支援協議会に出席し、協議、助言を実施 <ul style="list-style-type: none"> 奥州市：事業者部会10/28、就労部会10/26、研修会11/10、地域生活支援部会10/13 一関地区：親会2/18予定、運営委員会：10/5、11/19、2/4予定 合庁内での福祉事業所のパン類等販売会の支援及び職員への周知 各所属でのハート購入の取組継続 農福連携関係者会議の開催検討 事業者、農業者向け研修会の開催 事業所等への個別支援対応(随時) 実務担当者打合せ会(随時)
⑥ 「i-サポ奥州」の利用促進などを通じた結婚支援対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「i-サポ」入会登録数[累計]：目標1,028人 	<p>(1) 「i-サポ」の利用促進に向けた周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポスター、リーフレットによる周知 <p>(2) 市町や関係団体との連絡会議等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県南広域圏結婚支援関係団体等連絡会議の開催 <p>(3) 「いわて結婚応援の店」の協賛店の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット等の配付等による周知 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等でのポスター、リーフレット等による周知(随時) 食品衛生講習会におけるリーフレット等の配布及びPR(7～9月)：本局59件 制度周知 本局138件、花巻69件、計207件 	<p>【進捗状況】<u>遅れ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 登録数3月末から8月末で53名増 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会等の中止による、周知機会の減少 <p>【指標の状況】</p> <p>8月末現在登録数累計808人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新たな周知方法の検討 「いわて結婚応援の店」協賛店拡充に向けた周知

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
⑦子育てしやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて子育て応援の店」延べ協賛店舗数〔累計〕：783件 	<p>(1) 市町・保育事業者への助言・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町児童福祉(子育て支援)担当者連絡会議の開催(本局) → 8市町児童福祉担当者連絡会議は中止) ○各市町が主催する会議への出席 <p>(2) 「いわて子育てにやさしい企業等」認証制度の普及拡大及び「いわて子育て応援の店」の協賛店の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業訪問による認証勧奨、制度周知 ○リーフレット等の配付等による周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町及び保育事業者への個別助言 ・奥州市：子ども・子育て会議(8/24) <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問：3件(本局0件、花巻3件、一関0件) ・制度周知：278件(本局59件、花巻69件、一関150件) ・食品衛生講習会におけるリーフレット等の配布及びPR(毎月) 配布周知：357件(本局138件、花巻69件、一関150件) 	<p>【進捗状況】遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8市町児童福祉担当者連絡会議の中止 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会等の中止による、周知の場の減少 <p>【指標の状況】</p> <p>認証累計100件 R3認証数：6件(新規4、更新2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町の主催会議に出席し、適宜助言 奥州市子どもの権利推進委員会(10/4) <ul style="list-style-type: none"> ・「いわて子育てにやさしい企業等」認証制度周知及び「いわて子育て応援の店」協賛店拡充に向けた周知(本局)いわて子育てにやさしい企業等認証書交付式(10/13) (本局)企業訪問(10/12)：1件 <p>※企業訪問については、今後の新型コロナの状況を見ながら、適時実施</p>

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	重点施策	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります		
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)	
	① 公共用水域の環境基準BOD(生物化学的酸素要求量)達成率(%)			100%	100%	
	② 産業廃棄物適正処理率(%)			99.5%	100%	
	③ ニホンジカの捕獲数(累計)(頭)			4,582頭	16,582頭	
	④ 食中毒患者数(人口10万人当たり)(人)			16.3人	13.6人	
	⑤ 緊急輸送道路の整備延長(累計)(m)			0	14,880m	
⑥ 河川整備延長(累計)(m)			0	5,800m		

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①地球温暖化防止に向けた取組の支援	・エコスタッフ養成者数[累計]: 目標487人	(1) 多量排出事業者の地球温暖化防止取組の支援 ○令和2年度地球温暖化対策実施状況報告・令和3年度対策計画の提出 ○エコスタッフ養成セミナーの開催 ○いわて地球環境にやさしい事業所の認定 (2) 県民や事業者、行政が連携した地域ぐるみの省エネ活動等の推進 ○エコドライブ講習の実施	・地球温暖化対策計画(事業所) R2実施状況報告 72/72(100%) R3対策計画 47/37(127%) ・エコスタッフ養成セミナー実施(7/30) 受講者38名(認定書交付) ・いわて地球環境にやさしい事業所の認定 4/30認定:新規2事業所、更新3事業所 7/30認定:更新5事業所 ・エコスタッフ養成セミナー(7/30)と併催実施	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・エコスタッフ普及に向けた周知等に取る必要 【指標の状況】 463人	・いわて地球環境に優しい事業所 10/31認定:新規4件、更新14件予定
②循環型地域社会の構築に向けた廃棄物対策の推進	・廃棄物排出事業者等説明会への参加企業数(事業者)[累計]: 目標3,468事業者	(1) 廃棄物の3Rを基調とするライフスタイルの定着及び環境に配慮した事業活動促進 ○産業廃棄物排出事業者等説明会の開催(10月以降) ○クリーンいわて行動の日の実施(5月) (2) 不法投棄対策の推進 ○廃棄物合同パトロールの実施 ○産業廃棄物適正処理指導員による事業者への適正処理指導	・〈一関〉(5/28、6/9)実施 (本局、花巻は感染防止のため中止) ・土木部と連携し、建設リサイクルパトロールを実施(本局・花巻・一関:5回) (廃棄物合同パトロールは中止) ・事業者への適正処理指導の実施:3,864件(うち報告徴収13件)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・関係機関等と連携した事業者への適正処理指導の継続実施が必要	・排出事業者説明会をWEBセミナー形式で開催(11/15～19) ・不適正処理事案に対する、廃棄物処理法に基づく報告徴収等による指導強化
③優れた自然環境等の保全・保護活動の推進	・排水基準適用の事業場(製造業)における排水基準適合率: 目標100%	(1) 多様な主体が連携した地域全体での環境保全活動の活性化の促進 ○水生生物調査等の支援(夏期) ○早池峰地域等の環境保全対策の推進 ○河川等の環境保全に向けた取組の推進(流域協議会の開催) (2) 工場等への立入指導等による事業場排水の適正化の推進 ○採水検査及び立入指導の実施 ○公共用水域及び地下水の水質測定の実施	・水生生物調査の機材貸出し6件 ・早池峰環境保全キャンペーンは中止 ・移入種駆除実施(6/16)、仮設トイレ設置(6/3) (登山道パトロールは中止) ・流域協議会各団体の活動計画把握(本局・一関、～5月)、連絡会議書面開催(花巻:4月) ・採水検査及び立入指導10回(計画値14回) ・公共用水域測定202回(計画値215回) ・地下水測定37回(計画値52回)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 【指標の状況】 100%	・水生生物調査等への支援(随時) ・来年度の早池峰地域環境保全活動に向け早池峰地域保全対策事業推進協議会及び部会(2月)を開催 ・流域協議会の開催等(1月～) ・事業場排水の適正化に向けた工場等の立入指導や排水検査等の実施

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
④野生鳥獣等の適正な保護管理	・新規狩猟免許取得件数〔累計〕： 目標516件	(1) 関係機関との情報交換会の開催等 ○ツキノワグマ管理協議会の開催 ○県南地域野生鳥獣被害防止対策連絡会への出席 (2) 新規狩猟免許所得希望者の拡充 ○普及啓発用チラシによる普及啓発 ○新規免許取得希望者向けセミナーの開催 (3) モデル地域におけるツキノワグマ防除対策の推進 ○北上市のモデル地域における防除対策実施の効果等検証 ○モデル地域住民へのクマ防除対策への啓発	・ツキノワグマ管理協議会の開催（本局：9月書面） ・狩猟免許試験（新規）の実施（7/11、9/12） ・ツキノワグマ出没状況調査の実施（6/22センサーカメラ設置） ・各部及び各市町主催会議等での普及啓発用パンフレット、チラシ配布による周知（奥州市鳥獣被害対策協議会、金ヶ崎町鳥獣被害対策協議会、シイタケ会議） ・地域のクマ出没情報収集（8月～12月）	【進捗状況】 順調 【主な課題】 ・関係機関と連携した野生鳥獣被害防止の取組推進が必要	・ツキノワグマ管理協議会の開催（年度内） ・県南地域野生鳥獣被害防止対策連絡会出席（10/21） ・農業従事者や市町村等主催会議等での狩猟者拡充・野生鳥獣被害防止のパンフレット・チラシ等配布による周知（随時） ・狩猟免許試験（新規）の実施（12月） ・住民参加型のクマ被害防止のためのモニタリング調査等の実施（クマ被害防止対策ワークショップの開催（10月）は中止）
⑤人と動物が共生する社会の実現に向けた取組	・猫の譲渡会の開催回数〔累計〕： 目標40回	(1) 猫の譲渡の推進 ○猫の譲渡会の開催 ○猫の譲渡希望者の募集・登録 (2) 動物愛護思想の普及啓発 ○犬、猫の飼い主への指導 ○動物取扱業者や特定動物飼養者への指導	・ねこ譲渡会開催（一関：1回） ・HP掲載やコミュニティーFMの活用による譲渡希望者募集や啓発を実施（本局：5月～9月、番組14回、CM59回） ・FMラジオによる「犬や猫の適正飼養」に関する啓発CMの実施（本局：59回、一関：24回）※9月末で終了 ・FMラジオによる「適正飼養」に関するコーナー放送（本局：14回） ・動物取扱業者への指導を実施（34業者44回）	【進捗状況】 順調 【主な課題】 ・新型コロナ感染防止対策を踏まえた猫の譲渡の取組推進 ・令和3年度改正の動物愛護管理法に基づく動物取扱業者への指導実施 【指標の状況】 1回（累計71回）	・ねこ譲渡会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しつつ、県南局管内の3保健所が連携し開催 ・HPやSNSを活用した猫の譲渡希望者募集 ・HPやチラシによる子猫・子犬の一時預かりボランティアの募集 ・動物取扱業者に対する定期的な立入等による指導の強化
⑥食の安全と安心の取組の推進	・HACCP衛生管理計画を策定している食品営業施設の割合： 目標70%	(1) 関係機関との協働による営業者への指導及びHACCPに基づく衛生管理の普及 ○食品営業施設への立入監視及びHACCP衛生管理計画策定状況の確認 ○収去検査の実施 ○食中毒予防に向けた事業者指導の実施	・食品事業者への立入検査及びHACCP衛生管理計画策定状況の確認を実施（3,117件） ・収去検査の実施（90件） ・許可更新時における責任者講習等の実施（6回） ・衛生管理計画作成ワークショップの開催及び衛生管理宣言ステッカーの交付（24回）	【進捗状況】 順調 【主な課題】 ・HACCPに基づく衛生管理制度化への事業者の対応を促進する必要	・HACCPに沿った衛生管理の制度化の周知及び指導の実施 ・立入検査時の指導（年度計画により実施） ・衛生管理計画作成ワークショップの開催（月1～2回） ・講習会の実施（責任者講習等、月1～2回） ・DVDの貸出（随時）
⑦災害に強い道路ネットワークの構築	・緊急輸送道路等における耐震化完了橋梁数〔累計〕： 目標6橋	(1) 橋梁の耐震補強や法面防災点検等の結果を踏まえた対策など、緊急輸送道路の防災機能強化の推進 ・国道397号 小谷木橋（奥州市） ・花巻停車場花巻温泉郷線 落合橋（花巻市）において事業を実施	・国道397号 小谷木橋が5/31に開通 ・落合橋において事業実施中	【進捗状況】 順調 【主な課題】 【指標の状況】 ・第2四半期まで累計6橋（目標達成） R2まで5橋、R3小谷木橋 今年度中に落合橋も完了の見込み （目標以上に達成、予算の重点配分により順調に進捗）	・事業の着実な推進に向けて、適切な工事監督業務等により、事業の進捗を管理（落合橋R3.12）

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
<p>⑧ハード・ソフトを組み合わせた防災・減災対策及び危機管理対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県管理河川における水位周知河川の指定河川数〔累計〕：目標14河川 県管理河川における想定最大規模の降雨に対応した洪水浸水想定区域の指定河川数〔累計〕：目標7河川 土砂災害警戒区域等指定箇所数〔累計〕：目標2,700箇所 	<p>(1) 水位周知河川の指定を推進 ○遠野市小鳥瀬川の指定</p> <p>(2) 洪水浸水想定区域の指定を推進 ○令和4年度における花巻市稗貫川の指定に向けた関係者との調整・準備</p> <p>(3) 土砂災害警戒区域の指定を推進 ○管内8市町のうち6市町は指定完了、残る奥州市、一関市について今年度内の指定完了を目標</p> <p>(4) 自然災害や鳥インフルエンザ等の発生に備え、関係機関等と連携した取組を推進 ○県本部等主催訓練等の実施</p> <p>(5) 火山防災対策に係る関係機関との情報共有や、連携強化を推進 ○関係機関等と現地調査等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度中の指定に向けた関係機関との調整(小鳥瀬川における改良復旧事業が令和2年度内に完了) 近年、全国各地で激甚化、多発化する豪雨災害にかんがみ、関係者との調整の結果、指定年度を令和3年度に見直し 胆沢川についても指定の計画を早め、6/29追加指定 <p>指定に向けて6月から9月にかけて住民説明会を実施済。 *一関市 55箇所 *奥州市 229箇所 計284箇所</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【参考：一般国道107号大石地区斜面変状】</p> <ul style="list-style-type: none"> R3.5.1地震後の点検にて変状を確認、同日通行止め 国の専門家等の助言を得ながら、ボーリング調査等を実施し、地すべりの範囲を特定 現在、通行再開のための仮設道路の工法を検討中 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> 非常連絡態勢確認訓練の実施(4/26、9/4) 令和3年度岩手県総合防災訓練(会場：北上市・西和賀町)に向けた、関係機関等による打合せへの参加(4/9、21、5/19、6/3、22、7/16、8/2、8/19) 令和3年度岩手県総合防災訓練参加(9/4) 気象警報発令時の災害警戒本部地方支部設置(9/30時点) 奥州13日(大雨洪水9、暴風1、地震1、台風2) 花巻19日(大雨洪水14、暴風2、地震1、台風2) 一関11日(大雨洪水5、暴風2、地震2、台風2) ○鳥インフルエンザ等 <ul style="list-style-type: none"> 宮城県北部に所在する東部地方振興事務所登米地域事務所等と担当者連絡先の確認 <ul style="list-style-type: none"> 栗駒山現地調査(5/25実施) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <p>【指標の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2四半期まで累計13河川(今年度中に小鳥瀬川を指定予定) 第2四半期まで累計8河川指定(目標達成) R2までに7河川+胆沢川(目標以上に達成、頻発化する災害発生に対応して指定推進) 第2四半期まで累計3,367箇所指定(目標達成) 今年度中に284箇所指定予定(目標以上に達成、頻発化する災害発生に対応して指定推進) <p>【進捗状況】<u>遅れ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥インフルエンザ等について、研修等の開催の延期(新型コロナウイルス感染者数の減少や県南家保による豚熱ワクチン接種業務が一段落したため、研修等の開催に向けて関係機関と調整中) <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた、現地拠点施設設置・運営訓練(実動訓練)の実施時期等の見直しが必要 豚熱疑い事例の発生で明らかとなった課題の整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 早期の指定に向けた関係機関との調整・準備(R4.3頃指定予定) 稗貫川の令和3年度の指定に向けた手続(R3.10指定を目標に調整中) 奥州市、一関市(千厩土木管内)の土砂災害警戒区域の指定に向けた手続きの推進 一関市の未指定1箇所について、指定の理解を得るための個別説明を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【参考：一般国道107号大石地区斜面変状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地すべりの動きを抑える応急工事を10月から着手 早期交通確保のための仮設道路の工法検討及び工事着手 </div> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度岩手県総合防災訓練検証会(10/22)への対応 気象警報発令時における適切な地方支部の対応 基礎研修の実施(11月中予定) 机上訓練、現地拠点施設設置・運営訓練(実動訓練)等の検討、実施(時期等未定) 各市町や建設業協会等関係機関との連携強化 豚熱疑い事例発生で明らかとなった課題等を踏まえたマニュアルの見直し 栗駒山現地調査(2回目、10/19)への対応(一関総務センター参加予定)

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組																																													
⑨安全な通行、歩行者の安全確保のための道路整備の推進	・通学路(小学校)における歩道設置延長〔累計〕: 目標1,180m	(1) 通学路を中心とした歩道整備の推進 ○国道342号 瑞山(一関市) 花巻大曲線 志戸平(花巻市) 岩明岩谷堂線 藤里(奥州市) 胆沢金ヶ崎線 永沢(金ヶ崎町) 久田笹長根線 六原(金ヶ崎町) 若柳花泉線 油島(一関市) において事業を実施	<p>・全箇所において事業実施中</p> <p style="text-align: right;">単位:m</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工区</th> <th>R2まで</th> <th>第2四半期まで</th> <th>下半期予定</th> <th>今年度末見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>瑞山</td> <td>510</td> <td>0</td> <td>230</td> <td>740</td> </tr> <tr> <td>志戸平</td> <td>470</td> <td>0</td> <td>40</td> <td>510</td> </tr> <tr> <td>藤里</td> <td>330</td> <td>0</td> <td>640</td> <td>970</td> </tr> <tr> <td>永沢</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>210</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>六原</td> <td>0</td> <td colspan="2">(今年度は用地買収等)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>油島</td> <td>0</td> <td>125</td> <td>145</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>完了路線</td> <td>940</td> <td>0</td> <td></td> <td>940</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,300</td> <td>125</td> <td>1,265</td> <td>3,690</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第2四半期まで計 2,425</p>	工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込	瑞山	510	0	230	740	志戸平	470	0	40	510	藤里	330	0	640	970	永沢	50	0	210	260	六原	0	(今年度は用地買収等)		0	油島	0	125	145	270	完了路線	940	0		940	計	2,300	125	1,265	3,690	<p>【進捗状況】 順調</p> <p>【主な課題】</p> <p>【指標の状況】</p> <p>・第2四半期までに累計2,425m(目標達成) (目標以上に達成、事業完了間近の箇所に予算の重点配分)</p>	<p>・事業の着実な推進に向けて、適切な工事監督業務等による事業の進捗管理</p>
工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込																																														
瑞山	510	0	230	740																																														
志戸平	470	0	40	510																																														
藤里	330	0	640	970																																														
永沢	50	0	210	260																																														
六原	0	(今年度は用地買収等)		0																																														
油島	0	125	145	270																																														
完了路線	940	0		940																																														
計	2,300	125	1,265	3,690																																														
⑩衛生的で快適な生活環境の確保	・汚水処理人口普及率: 目標84.4%	(1) いわて汚水処理ビジョン2017に基づく汚水処理施設整備の推進 ○管内8市町において、公共下水道事業や農業集落排水事業を実施	<p>・全市町において事業実施中</p>	<p>【進捗状況】 - ※例年、前年度末の状況を8月末頃に発表</p> <p>【主な課題】</p> <p>・全県の傾向として人口密度の低い地域で普及が遅れている状況</p> <p>【指標の状況】</p> <p>・令和2年度末における目標83.0%に対し81.7%</p>	<p>・事業の着実な推進に向けて、市町との連携を図り、適切に支援</p>																																													

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	重点施策	3 一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)
	県外からの移住・定住者数(市町報告値・県内移動除く)(人)			146人	220人

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①国際リニアコライダー(I L C)関係者等と住民が共に安心して暮らせる環境の整備	・医療通訳研修会修了者数〔累計〕：目標60人	<p>(1) 外国人研究者とその家族などの受入態勢整備</p> <p>○医療通訳者養成研修会の開催</p> <p>(2) 国際リニアコライダー(I L C)実現後の多文化共生に関する、住民への理解促進</p> <p>○管内市町のK E Kへの視察(コロナのため中止)</p> <p>○国立天文台水沢との図書館合同展示等の実施</p> <p>○管内市町との意見交換会の開催</p> <p>(3) 住民への国際リニアコライダー(I L C)の普及啓発</p> <p>○中学生向けI L Cセミナーの開催</p>	<p>・医療通訳者養成研修会の開催に向けた奥州市国際交流協会と調整</p> <p>・管内図書館における国立天文台水沢との企画展示、講演会及びワークショップを実施</p> <p>【企画展示】 平泉町(7/7～18)、金ヶ崎町(7/24～8/22)、遠野市(8/6～8/11)、一関市(8/27～9/23)、西和賀町(9/1～9/26)</p> <p>【講演会・ワークショップ】 講演会：金ヶ崎町(7/17)、西和賀町(9/22) ワークショップ：西和賀町(7/29)、遠野市(8/8)</p> <p>・管内市町との意見交換会の開催(書面)</p> <p>・中学生向けI L Cセミナー実施(6/10大迫中、3年生26人)</p>	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <p>・新型コロナ感染防止対策を踏まえた事業の実施</p>	<p>・医療通訳者養成研修会の開催(11/27～28)</p> <p>・管内図書館における国立天文台水沢との合同展示を実施(11月奥州市・一関市、1月花巻市)</p> <p>・中学生向けI L Cセミナーの実施(10/29遠野東中、2年生41人)</p>

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
② 持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	・地域活性化イベント等による事業創出数：目標2事業/年	<p>(1) 住民等による自主的な地域課題解決の取組や、市町や県の区域を越えた広域的な課題解決の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首長懇談会の開催 ○副首長懇談会の開催 ○政策・企画部課長会議の開催 ○政策課題研究会の開催 <p>○岩手・宮城県際連絡会議の開催</p> <p>(2) 伝統文化・民俗芸能の魅力発信や文化芸術と触れ合う機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県文化芸術コーディネーター（CD）設置による相談、情報収集・発信等への支援 <p>○若者文化振興事業費補助金による文化芸術活動の支援と機会の創出</p> <p>(3) 市町が実施する地域内交通の利用促進等の取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各市町の地域公共交通会議へ委員として参画 ○地域公共交通に関する担当者会議の開催 <p>(4) 住民や地域おこし協力隊などの自主的活動の支援や、関係人口の創出・拡大に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台圏在住者（社会人）を対象としたワークショップの開催 ○仙台圏在住学生を対象としたワークショップの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・首長懇談会(中止) ・副首長懇談会（Web、7/9） ・政策・企画担当部課長会議（4/14） <p>・岩手・宮城の関係地方事務所（R3事務局：宮城県栗原地域事務所）と連携した情報発信（広報誌発行と県HP掲載：2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県文化芸術CDによる文化団体や施設の活動支援：9件（法人設立、教室開催、文化施設活用方法等の相談対応等） ・CD制度の関係機関への周知・活用依頼（7月） ・事業実施希望者公募・決定 <p>・地域公共交通会議への参画（花巻市6/25、一関市5/20・9/16、奥州市6/28・7/28、西和賀町8/6、平泉町9/24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人対象ワークショップの実施（Web）（説明会8/18 スクールプログラム9/4・9/11・9/25） ・学生対象ワークショップの実施（集合：説明会6/10、Web：オリエンテーション6/30・ゼミ7月～9月に延べ8回） 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議には、Web方式も導入 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染防止対策を踏まえた事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策・企画担当部課長会議開催（10/26） ・政策課題研究会(11～1月予定)開催準備（テーマ：地域公共交通） ・関係地方事務所と連携した情報発信、岩手・宮城県際連絡会議開催（11/11） ・文化芸術CD等関係機関と連携した活動支援と情報発信を実施 ・一部延期となっている補助事業の実績確認及び補助金交付事務 ・地域公共交通会議への参画 ・政策課題研究会(第1回 11～1月予定)開催準備（テーマ：地域公共交通）（再掲） ・社会人ワークショップ提案の企画（グッズを活用した県南圏域への関心の喚起）を実施（10月以降予定） ・ワークショップ参加学生が現地活動等（棚田を活用したデイキャンプ）を実施（10～11月予定）
③ 移住定住の促進	・市町村窓口・移住相談会等における移住相談受付数：目標700人	<p>(1) 市町と連携した県南圏域の魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○U・Iターン相談会における情報提供 <p>(2) 移住者が安心して活躍できる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住推進担当県南ブロック情報交換会(7/27)開催 ・南いわて暮らしセミナー(10/30)のオンライン開催にかかる関係機関等との調整 ・商工団体総会での働き方改革運動や移住支援金制度等のリーフレット配布（奥州商工会議所、花巻商工会議所） ・就業支援員等による事業所訪問時のリーフレット配布 <p>・移住定住推進担当県南ブロック情報交換会(7/27)開催（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振興局と定雇室との意見交換会（9/13）での来年度事業に係る調整実施 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庁事業等との連携・調整による効果的な事業実施 ・「南いわてへの移住・定住」機運を醸成・促進する効果的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・南いわて暮らしセミナーのオンライン開催（10/30） ・移住支援金制度等の周知と対象法人登録の働きかけの実施 ・商工団体会報への働き方改革運動や移住支援金制度等の記事掲載依頼 ・次年度事業実施に向けた事業内容検討及び予算確保

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	Ⅱ 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	重点施策	4 ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます		
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)	
	ものづくり関連分野(輸送用機械、半導体製造装置、電子部品・デバイス等)の製造品出荷額(億円)			12,910億円	14,500億円	
	東北地域ものづくり関連分野の製造品出荷額における県南地域のシェア(%)			12.6%	14.5%	

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組																																			
① 地域企業の技術力向上及び技術革新を含めた生産性向上の支援	・生産管理関連講座受講者数〔累計〕： 目標2,000人	(1) QCD能力向上等のための研修を実施 ○ものづくり人材育成講座(集合研修)の開催(年間計画13回(13講座)) ○オーダーメイド研修実施(募集枠5社)	・ものづくり人材育成講座(集合研修)開催(2回) ・オーダーメイド研修実施(決定5社、うち実施4社)	【進捗状況】遅れ ・岩手緊急事態宣言により2回開催時期を延期 【主な課題】 ・次年度メニュー設定に向けた企業ニーズの把握	・ものづくり人材育成講座(集合研修)開催(11回) ・オーダーメイド研修に係る実施内容調整及び研修実施(1社、2月予定)																																			
② 自動車・半導体関連産業への一層の参入促進及び国際リニアコライダー(ILC)の関連技術や第4次産業革命(IoT等)の新技术を活用した取組の支援	・管内ものづくり企業の新規受注件数〔累計〕： 目標310件	(1) 自動車や半導体関連産業などへの新規参入、企業間の取引拡大及び、サプライチェーンの構築 ○アドバイザー(AD)による企業訪問(指導) ○現場改善・品質管理実践指導 ○ものづくり企業下請法講座の開催(年3回程度) (2) 第4次産業革命(IoT等)の新技术の導入事例の横展開 ○IoT導入支援セミナー等の開催 ○IoT人材とものづくり企業のマッチング支援	・ADによる企業訪問(1回) ・ものづくり企業下請法講座開催(第1回5/21、第2回7/30) ・経営課題解決IoT活用セミナー開催(Web、9/17)	【進捗状況】遅れ ・新型コロナウイルス感染拡大によりADによる企業訪問・現場改善指導に遅れ 【主な課題】 ・アドバイザー稼働減少に伴う、企業訪問・現場指導の優先度見極め ・IT、IoT導入メリットの理解促進及び企業ニーズの把握	・ADによる企業訪問指導(月1回) ・現場改善・品質管理実践指導(3回) ・ものづくり企業下請法講座(第3回10/29予定) ・個別支援(専門家派遣等)の実施 ・IT企業とものづくり企業によるIT活用研究会の開催(12～1月予定)																																			
③ 伝統産業の魅力発信	・伝統産業の各種イベント(オープンファクトリー等)への来場者数〔累計〕： 目標8,000人	(1) 「いわて県南エリア伝統工芸協議会」の活動支援 ○デザイン、販路拡大、商品開発等のセミナー開催支援 (2) 「オープンファクトリー五感市」の開催支援 ○オープンファクトリー五感市実行委員会に参画し、五感市の発展拡大を支援	・いわて県南エリア伝統工芸協議会役員打合せ出席、セミナー開催に係る調整 ・五感市オンラインツアー開催補助(8/23) ・オープンファクトリー五感市実行委員会役員会への出席、実施事業の調整(オープンファクトリー周遊型は中止)	【進捗状況】遅れ ・新型コロナウイルス感染拡大により通年型オープンファクトリー開始延期 【主な課題】 ・次年度以降の支援等の検討	・いわて県南エリア伝統工芸協議会の人材育成事業として、セミナーの開催(時期、内容等調整中) ・通年型オープンファクトリー実施(参加10社、時期調整中)※他事業者とのコラボによる受入れも検討 ・オープンファクトリー中止に伴うメッセージ動画等制作補助																																			
④ 産業を振興する道路整備の推進	・物流の基盤となる道路整備長： 目標14,880m	(1) 工業団地が集積する内陸部と港湾等を結ぶアクセス道路などの広域的な物流の効率化につながる道路整備や内陸部の工業・物流団地間相互やインターチェンジを結び、生産性の向上につながる道路整備の推進 ○国道342号 白崖(一関市) 国道397号 小谷木橋(奥州市) 一関北上線 谷地(奥州市)	・全箇所において事業実施中 ・国道397号 小谷木橋が5/31に開通 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">単位:m</th> </tr> <tr> <th>工区</th> <th>R2まで</th> <th>第2四半期まで</th> <th>下半期予定</th> <th>今年度末見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白崖</td> <td>1,830</td> <td>0</td> <td>610</td> <td>2,440</td> </tr> <tr> <td>小谷木</td> <td>400</td> <td>1,020</td> <td>0</td> <td>1,420</td> </tr> <tr> <td>谷地</td> <td>0</td> <td colspan="2">(今年度は用地買収等)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>完了路線</td> <td>11,020</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>11,020</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,250</td> <td>1,020</td> <td>610</td> <td>14,880</td> </tr> </tbody> </table> 第2四半期まで計 14,270	単位:m					工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込	白崖	1,830	0	610	2,440	小谷木	400	1,020	0	1,420	谷地	0	(今年度は用地買収等)		0	完了路線	11,020	0	0	11,020	計	13,250	1,020	610	14,880	【進捗状況】順調 【主な課題】 【指標の状況】 第2四半期までに累計14,270mの整備	・事業の着実な推進に向けた、適切な工事監督業務等による事業の進捗管理
単位:m																																								
工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込																																				
白崖	1,830	0	610	2,440																																				
小谷木	400	1,020	0	1,420																																				
谷地	0	(今年度は用地買収等)		0																																				
完了路線	11,020	0	0	11,020																																				
計	13,250	1,020	610	14,880																																				

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	Ⅱ 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	重点施策	5 ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します		
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)	
	県南圏域高校生の管内就職率(%)			63.9%	85.0%	

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
① 人材確保に向けた地域企業や事業所の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> いわて働き方推進運動参加事業所数：目標220社 企業ガイド(サイト)閲覧数：目標4,300回 	<p>(1) 働き方改革の取組や労働条件の改善に向けた産業関係団体や企業への要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町、公共職業安定所などと連携した要請活動の実施 <p>(2) 仕事と子育て、介護等との両立や全ての人が働きやすい環境づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商工団体会報への働き方改革運動や移住支援金制度等の記事掲載依頼 ○就業支援員等による事業所訪問時のリーフレット配付 <p>(3) 地域企業が希望する人材の確保への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いわて県南広域企業ガイド」の学校等への配架、ホームページ掲載 <p>(4) 地域企業の採用力向上の取組への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「採用力向上のための勉強会」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 要請活動の実施(花巻市5/19、北上市5/23、金ケ崎町5/25、奥州市5/31、一関地区5/21) 商工団体総会での働き方改革運動や移住支援金制度等のリーフレット配布(奥州商工会議所、花巻商工会議所) 就業支援員等による事業所訪問時のリーフレット配布 「いわて県南広域企業ガイド」更新・学校への配架、HP掲載情報の更新(9/30現在170社) 「採用力向上のための勉強会」高卒採用編(第1回(4/21)15社18名、第2回(5/18)14社16名)開催 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革運動や移住支援金制度等の更なる周知 <p>【指標の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> いわて働き方改革推進運動参加事業所 210社(8/31現在) 企業ガイド(サイト)閲覧数 4,620回(9/30現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革運動への参加促進 移住支援金制度等の周知と対象法人登録の働きかけ 商工団体会報への働き方改革運動や移住支援金制度等の記事掲載依頼 「いわて県南広域企業ガイド」の活用による保護者への地域企業の周知 「採用力向上のための勉強会(大卒採用編)」の開催準備(11/30)
② 若者の職業意識、地元志向の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 学校を会場とした企業ガイダンス実施支援回数：目標4回 キャリア教育支援件数：目標180件 	<p>(1) 新規高卒者の就職や職場定着の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就業支援員、県内就業・キャリア教育コーディネーター(以下、「就業支援員等」という。)による求人情報の収集及び職場定着支援の実施 <p>(2) 小中学生、高校生向けの出前授業等を通じた若者の職業意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就業支援員等による就職ガイダンスや面接練習等の就職支援 ○地域企業理解に向けた「きたかみ・かねがさきテクノメッセ」の高校生の見学支援 ○地域企業の先輩社員等を講師とした出前授業の開催 ○管内市町と連携した「南いわて地域協働によるキャリア教育研究会(仮)」の開催 ○小中学生、高校生等を対象に建設業への理解を深めてもらう「建設業ふれあい事業」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 就業支援員等による職場定着支援を実施(定着支援件数：173件(9/30現在)) 就業支援員等による高校生の面談や面接練習等の就職支援(学校訪問：804件、キャリア教育支援：206件(9/30現在)) 高校を会場とした企業情報ガイダンスの開催に向けた調整(11/10水沢工、千厩、一関工、花北青雲) 地域企業の先輩社員等を講師とした出前授業の実施に向けた調整(水沢工、花巻農) 「南いわて地域協働によるキャリア教育研究会」の開催(8/17→10/20延期)(「きたかみ・かねがさきテクノメッセ2021」は感染拡大により中止) 県南局管内における「建設業ふれあい事業」の開催(7/8西南中、7/14胆沢第一小) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高生が地域企業を知る機会の確保 <p>【指標の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育支援件数 206件(9/30現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 就業支援員等による職場定着支援の実施(10月) 就業支援員等による面談、内定者ガイダンス等の就職支援 高校を会場とした企業情報ガイダンス開催(11/10水沢工、千厩、一関工、花北青雲) 地域企業の先輩社員等を講師とした出前授業の開催(水沢工、花巻農) 「南いわて地域協働によるキャリア教育研究会」の開催(10/20) 建設業ふれあい事業の開催(4回)(10/5室根西小、10/28黒沢尻北小、10/28一関南小、11/16遠野西小)

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
②若者の職業意識、地元志向の醸成(つづき)		<p>(3) U・Iターン希望者への地域企業の情報等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普通校等を対象とした「いわてで働く！出前授業」の開催 ○「南いわて暮らしセミナー」での企業情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通高校等対象前授業の開催(6/1花巻北、6/1岩谷堂(第1回)、6/2黒沢尻北、6/17金ヶ崎(本庁も自室共催)、6/23大迫) ・出前授業の開催準備(岩谷堂(第2回、第3回)) ・「南いわて暮らしセミナー」(10/30)の開催準備 		<ul style="list-style-type: none"> ・普通高校等を対象とした出前授業の開催(岩谷堂(第2回10/19、第3回1月予定)) ・「南いわて暮らしセミナー」の開催(10/30)
③地域企業の理解促進や高校生の資格取得支援	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校生の企業見学・出前授業等の実施回数:目標80件 ・高校生の技能検定合格者数:目標400人 	<p>(1) 北上川流域ものづくりネットワークによる地域企業への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中学校や高校等の工場見学や出前授業の開催支援 <p>(2) 教員や保護者を対象とした地域企業への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員向けミニ企業見学会の開催 ○高校を会場とした企業情報ガイダンスの開催 ○実践的キャリア教育研修会の開催支援 <p>(3) 工業高校生等を対象とした実技講習等の支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資格取得に向けた実技講習会の開催支援 <p>(4) インターンシップ等を支援し企業を支える質の高い人材の育成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受入れ可能企業の掘り起こし 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校:工場見学9件、出前授業11件 ・工業高校:出前授業4件 ・普通高校等対象ものづくり企業等見学会:1校 ・教員向けミニ企業見学会の実施(8/3~8/5) ・高校を会場とした企業情報ガイダンスの開催に向けた調整(11/10水沢工、千厩、一関工、花北青雲)(再掲) ・県南・中部の教育事務所ともに中止(中部では資料提供のみ) ・PTA向け工場見学会の開催支援(6/30黒沢尻工(本庁も自室共催)) ・実技講習会(花北青雲(6/19~7/17NC旋盤、7/6~24電子機器組立)、黒沢尻工(8/3~5溶接))の実施支援 ・指導者向け研修会(8/10、11シーケンス制御(機械専門部)、8/20電子回路組立(電気専門部))の実施支援 ・企業に対する照会の機会を活用した、インターンシップ等の受入可否に関する情報収集 	<p>【進捗状況】<input checked="" type="checkbox"/>順調</p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高生が地域企業を知る機会の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズに応じた小中学生、高校生、教員を対象とした工業見学や出前授業の実施 ・教員向けミニ企業見学会の参加者募集及び実施(1/6~7) ・高校を会場とした企業情報ガイダンス開催(11/10水沢工、千厩、一関工、花北青雲)(再掲) ・一関高専学生と保護者等対象の「地域企業情報ガイダンス」(10/23)の開催支援 ・実技講習会、指導者向け研修会の開催支援

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
④ 企業を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 改善関連勉強会等受講者数：目標30人 	<p>(1) 地域企業の生産性の向上に向けた企業を支える優れた人材育成による企業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ものづくりいわて塾」「生産性向上のためのからくり改善勉強会」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生産性向上のためのからくり改善勉強会」の開催（初級編（全2回）受講者10人（6/15、7/13）、実践編（全6回 7/30、8/27（中止）、9/17（中止）、10/22、11/26、1/28）の受講者募集 ・「ものづくりいわて塾」の実施に向け、受講者募集及び関係企業と調整 ・「いわて3Sサミット」（2月予定）の開催検討のための運営委員会の開催（5/28、6/25、9/17） 	<p>【進捗状況】遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向け研修について、岩手緊急事態宣言発令期間内の実施を見送ったことから、「いわて塾」は第1回の開催を延期、「からくり改善勉強会」は第2回、第3回の勉強会を中止 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修再開にあたり、日程の追加など、日程等の再調整が必要 ・「いわて3Sサミット」の開催方法にかかる関係機関との調整 <p>【指標の状況】</p> <p>20人（9/30現在）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生産性向上のためのからくり改善勉強会」実践編の開催 ・「ものづくりいわて塾」の開催 ・「いわて3Sサミット」（2月予定）の開催検討に向けた実行委員会の開催（10～1月予定）
⑤ 移住定住の促進（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村窓口・移住相談会等における移住相談受付数：目標700人 	<p>(1) 市町と連携した県南圏域の魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○U・Iターン相談会における情報提供 <p>(2) 移住者が安心して活躍できる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住推進担当県南ブロック情報交換会（7/27）開催 ・南いわて暮らしセミナー（10/30）のオンライン開催にかかる関係機関等との調整 ・商工団体総会での働き方改革運動や移住支援金制度等のリーフレット配布（奥州商工会議所、花巻商工会議所） ・就業支援員等による事業所訪問時のリーフレット配布 <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住推進担当県南ブロック情報交換会（7/27）開催（再掲） ・振興局と定雇室との意見交換会（9/13）での来年度事業に係る調整実施 	<p>【進捗状況】順調</p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庁事業等との連携・調整による効果的な事業実施 ・「南いわてへの移住・定住」機運を醸成・促進する効果的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・南いわて暮らしセミナーのオンライン開催（10/30） ・移住支援金制度等の周知と対象法人登録の働きかけの実施 ・商工団体会報への働き方改革運動や移住支援金制度等の記事掲載依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度事業実施に向けた事業内容検討及び予算確保

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	Ⅲ 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	重点施策	6 地域の魅力の発信による交流を広げます	
	重点指標			現状 (2017)	目標値 (2021)
	県南圏域の観光入込客数 (延べ人数) (万人回)			1,147.4万人回	1,168.9万人回

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進	・平泉町、一関市及び奥州市の観光入り込み客数(延べ人数): 目標587.8万人回	<p>(1) 世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした観光振興</p> <p>○世界遺産連携推進実行委員会の構成団体として、平泉世界遺産祭等の誘客事業に参加</p> <p>○「ケロ平」を活用したPR</p> <p>○新たな観光コンテンツづくりに向けた支援</p> <p>(2) 国内教育旅行の推進</p> <p>○沿岸圏域を含む連絡会議の設置、教育旅行担当教員の招聘やモニターツアーを実施</p> <p>○首都圏大学生協連と連携し、企業研修を行いながら観光施設を巡る事業を実施</p>	<p>・世界遺産連携推進実行委員会主催事業に係る企画検討等に参画</p> <p>・平泉世界遺産祭(7/3、4)の延期(9/25、26)中止による代替事業の企画検討</p> <p>・観光コンテンツ造成等業務委託実施(7/21公募、8/24選定委員会、8/31契約・着手)</p> <p>・周遊マガジン「ぐるり」(6/30発行)の配布</p> <p>・市町や事業者との連携によるケロ平を活用した世界遺産平泉のPR等を実施</p> <p>・県庁生協との連携によるケロ平ポロシャツ製作販売(8月)</p> <p>・ケロ平公式YouTubeチャンネルやSNSによる県南観光情報の発信(Twitterフォロワー数2,000人) (例:夏油高原熱気球体験搭乗 7/18)</p> <p>・花北高応援団との連携によるSL銀河お出迎えプロジェクト(8/22)は中止</p> <p>・管内動向の聴取(6月、訪問先:旅行関係事業者・市町・観光協会等)</p> <p>・各市町における観光コンテンツ造成等取組状況調査の実施(8/5文書照会、8/20)</p> <p>・南いわて連携型教育旅行推進事業(教員招聘、AGT訪問等)の委託実施(委託先:世界遺産平泉・一関DMO、期間:R3.6.10~R4.3.31)</p> <p>・教育旅行連絡会議の開催(7/8、釜石市)</p> <p>・県内外関係団体との情報交換(県東京事務所、県観光協会、東武トップツアーズ首都圏、日本旅行北海道、武蔵野市教育委員会、花巻温泉、平泉レストハウス、狛鼻溪、三陸鉄道など)</p> <p>・南いわてインダストリー観光リモートツアー委託業務の実施(期間:9/13~11/30、受託者:生協連合会大学生協事業連合、9/22募集開始 定員上限500名)</p>	<p>【進捗状況】遅れ</p> <p>・岩手緊急事態宣言に伴う事業等の中断による遅れ</p> <p>【主な課題】</p> <p>・コロナの感染状況の変化を反映した事業の見直しが必要</p>	<p>・観光コンテンツ造成等の実施(~3月)</p> <p>・平泉世界遺産祭中止に伴う代替事業の企画実施(10~3月)</p> <p>・いわて銀河プラザや松竹歌舞伎座における観光PR事業等の実施(3月)</p> <p>・来年度事業をはじめ、中長期的な取組内容等の検討</p> <p>・ケロ平公式YouTubeをはじめとした、各種SNSを活用したPR、ノベルティグッズの作成</p> <p>・市町や事業者によるケロ平の利活用の促進(活用例:SNS上「#ケロ平」による拡散、みやげ品業者への売り込み)</p> <p>・チームケロ平の活動への外部人材(県内在住大学生等)活用の検討</p> <p>・観光コンテンツ造成に係る委託内容の精査及び委託実施(10~3月)</p> <p>・教育旅行商談会・旅行AGT訪問等(東北観光推進機構主催、12月)</p> <p>・関係団体と情報交換(第二回教育旅行連絡会議、2~3月頃)</p> <p>・教員等の事前視察(但し、実施不可の場合は代替事業を検討)</p> <p>・リモートツアー実施(10/23 10:00~15:00)</p> <p>・リモートツアー(10/23)のYouTube公開</p> <p><ツアー内容> 毛越寺をメイン会場に、遠野(遠野ふるさと村)、花巻(株TSDなど3企業の紹介)、奥州市(えさし藤原の郷)からの中継</p>

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進(つづき)		<p>(3) 中京圏からの誘客拡大 ○食と観光を活用したPRを実施</p> <p>(4) 管内市町・団体や県際地域と連携した観光推進 ○市町・団体との連絡調整、東北DCに係る連携及び情報発信</p> <p>○釜石線沿線広域エリア活性化委員会への参加</p> <p>○岩手・宮城県際広域観光推進研究会に係る連絡調整</p>	<p>・(株)豊田自動織機社食フェア(5/24~6/16、6/7~11)、(株)デンソー社食フェア(5/24~6/18)におけるPR</p> <p>・県南広域圏観光担当者情報交換会開催(7/27)</p> <p>・南いわて商工相談支援ネットワークによる市町・商工団体への情報発信(宿泊施設補助等コロナ支援施策、東北DC情報等:30回)</p> <p>・委員会総会への出席(4/27)</p> <p>・東北DCのぼりの制作・掲示</p> <p>・SL銀河パンフレットの制作・配架</p> <p>・各地域でのおもてなし実施</p> <p>・幹事会開催(6/24) 構成機関:両県地方事務所全5団体出席 <協議事項> 会長・副会長の改選、R3事業計画</p>		<p>・(株)アイシン社食フェア(11/8~12)、(株)豊田自動織機社食フェア(11月予定)</p> <p>・社食フェア等をはじめ、本県を支援している中京圏企業への今後のアプローチについて検討</p> <p>・アフターコロナを見据えた誘客活動の検討</p> <p>・管内市町観光担当課訪問ヒアリングの実施(11月~12月)</p> <p>・西和賀応援企画の実施(盛岡駅12/3~5、奥州合庁等)</p> <p>・SL運行時の停車駅でのおもてなしを市町と連携して実施</p> <p>・活性化委員会担当者会議(2月)への参加</p> <p>・研究会開催(10/19、2月頃)</p> <p>・幹事会開催(12月頃)</p> <p>・今後の研究会の運営等(あり方検討を含む)に係る幹事会・研究会での協議</p>
②国内外からの観光客、国際リニアコライダー(ILC)の研究者やビジネス客等の受入に係るホスピタリティ向上	・県南圏域での宿泊者数: 目標192.2万人泊	(1) 外国人観光客等の受入推進 ○観光・宿泊施設を対象としたセミナーの開催 ○観光宿泊施設緊急対策事業費補助金交付事務	<p>・セミナー開催に係る企画検討</p> <p>・観光宿泊施設緊急対策事業費補助金に係る関係機関への周知・相談支援(募集期間:6/28~12/28)受理15件、相談10件(9/30現在)</p>	<p>【進捗状況】遅れ</p> <p>・岩手緊急事態宣言を踏まえ、セミナーの企画検討を中断</p> <p>【主な課題】</p> <p>・コロナ対策が最優先であり、ホスピタリティ向上を目的としたセミナー開催適否の判断</p>	<p>・セミナーについては開催中止で検討</p> <p>・観光宿泊施設緊急対策事業費補助金の審査・交付、適切な執行に向けた相談対応、完了確認・支出</p>
③教育機関や国際リニアコライダー(ILC)の関係者等との連携による海外との相互交流の推進	・県南圏域での外国人宿泊者数: 目標11.5万人泊	(1) 教育旅行を通じた台湾との相互交流の推進 ○訪日教育旅行の受入学校における生徒間交流の支援	<p>・本庁と振興局の役割分担等の確認(本庁:全県プロモーション、局:地域受入態勢整備・コンテツ磨き上げ)</p> <p>・県国際交流協会に連携の可能性について打診</p> <p>・訪日教育旅行に係る関係団体の状況等に係る情報共有</p>	<p>【進捗状況】順調</p> <p>【主な課題】</p> <p>・コロナ禍における交流機会の提供等を検討</p> <p>・アフターコロナを見据え、相互交流のあり方及び取組の検討</p>	<p>・県国際交流協会及び県内大学と連携し、県内在住留学生等を活用した高校生向け国際交流活動の実施に係る検討(時期・方法等)</p>

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組																																								
④地域と連携したスポーツツーリズムの振興	・スポーツ施設入場者数： 目標値338万人	(1) 地域のスポーツ資源とスポーツアクティビティの魅力の情報発信 ○地域のスポーツ資源やアクティビティのHPや観光情報SNSでの情報発信(再掲) (2) 東京2020オリ・パラ競技大会関連事業の支援と市町の実施事業の支援 ○聖火リレー関連事業の支援 ○地域経営推進費による市町の支援 (3) マラソン等連携事業など市町との連携による地域の魅力づくりの支援 ○県南レジェンドランナーズの実施 ○県南広域スポーツ等連携実行委員会での情報共有	・いわてスポーツコミッションHP等でのスポーツイベントの発信(レジェンドランナーズ事業) ・市町のスポーツアクティビティ情報を収集し、ラジオやSNSで発信(再掲) ・サイクリングインフォメーションのHP掲載とリーフレット配布(4月、50カ所)(再掲) ・サイクリング・ウォーキングデジタルルートマップサイトによる情報発信(23コース)(再掲) ・スポーツ&健康づくり情報のチラシ作成、保健所出前授業、工業クラブ等を通じて配布(9月末)(再掲) ・聖火リレーイベントへの支援(6/18) ・市町の機運醸成事業、ホストタウン、事前合宿事業の支援(市町村地経費) ・パラリンピック聖火採火式参加(8/12 西和賀) ・県南レジェンドランナーズ参加者募集(エントリー数371名) ・オンライン企画(3事業)実施、東北禱マラソンでのブース出展(6/26) ・実行委員会(5/31)、マラソン連携部会(8/25)開催により、マラソン大会実施方針や市町のスポーツ施策にかかる意見交換を実施	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・市町のスポーツ施策や実施状況を把握し、スポーツによる交流人口の拡大に向けた、新たな連携施策の検討が必要 ・各市町のマラソン大会等の中止を踏まえた取組の検討や地域の魅力を含めた情報発信が必要	・市町のスポーツアクティビティ情報を収集し、県南局SNSやラジオ番組等で発信(再掲) ・保健福祉環境部と連携したスポーツによる健康づくり情報の発信(2月頃)(再掲) ・事前合宿(例：奥州市カヌー)やホストタウンの実績を生かした、市町の大会・合宿誘致の取組を支援 ・オンライン企画(紅葉RUN)開催に向けた準備、情報発信 ・実走企画(記録会11/7)中止に伴う代替オンライン企画の検討、準備 ・次年度の県南レジェンドランナーズの展開や事業案を市町とともに検討																																								
⑤観光地へのアクセス向上や地域の魅力を高めるための道路整備の推進	・観光地へのアクセス道路整備延長(累計)： 目標11,910m	(1) 高規格道路等を有効に活用し、県内各地の観光地を周遊する道路の整備を推進 ○国道342号 白崖(一関市) 国道397号 小谷木橋(奥州市) 花巻大曲線 小倉山(西和賀町) 釜石遠野線 笛吹峠(遠野市)	・全箇所において事業実施中 ・国道397号 小谷木橋が5/31に開通 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">単位：m</th> </tr> <tr> <th>工区</th> <th>R2まで</th> <th>第2四半期まで</th> <th>下半期予定</th> <th>今年度末見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白崖</td> <td>1,830</td> <td>0</td> <td>610</td> <td>2,440</td> </tr> <tr> <td>小谷木</td> <td>400</td> <td>1,020</td> <td>0</td> <td>1,420</td> </tr> <tr> <td>小倉山</td> <td>0</td> <td colspan="2">(今年度はトンネル掘削)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>笛吹</td> <td>0</td> <td>3,525</td> <td>115</td> <td>3,640</td> </tr> <tr> <td>完了路線</td> <td>8,050</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8,050</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,280</td> <td>4,545</td> <td>725</td> <td>15,550</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第2四半期まで計 14,825</p>	単位：m					工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込	白崖	1,830	0	610	2,440	小谷木	400	1,020	0	1,420	小倉山	0	(今年度はトンネル掘削)		0	笛吹	0	3,525	115	3,640	完了路線	8,050	0	0	8,050	計	10,280	4,545	725	15,550	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 【指標の状況】 第2四半期までに累計14,825mの整備	・事業の着実な推進に向けた、適切な工事監督業務等による事業の進捗管理 ・釜石遠野線 笛吹峠における擁壁基礎部の崩落発生・復旧に伴う事業完了(R4)遅延に係る関係機関との調整
単位：m																																													
工区	R2まで	第2四半期まで	下半期予定	今年度末見込																																									
白崖	1,830	0	610	2,440																																									
小谷木	400	1,020	0	1,420																																									
小倉山	0	(今年度はトンネル掘削)		0																																									
笛吹	0	3,525	115	3,640																																									
完了路線	8,050	0	0	8,050																																									
計	10,280	4,545	725	15,550																																									

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	Ⅲ 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	重点施策	7 食産業のネットワークを活用し、交流人口の拡大を図ります	
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)
	食料品製造出荷額(億円)			837億円	870億円

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
① 地域食材を生かした魅力的な地域づくりの支援と交流人口の拡大	・地産地消イベント参加人数： 目標24,000人	(1) 地域の特徴ある食材を切り口とした体験型イベント等の開催 ○旬彩ごほうびフェアの3市町から県南広域への展開 ○新たな食の誘客コンテンツイベント(シェフ交流ディナー)等の開催 ○着地型旅行商品造成に向けた取組 (2) 食のまちの核となる人材育成とネットワーク強化 ○食のまちづくりチームの結成と人材育成研修	・旬彩ごほうびフェア内容検討(時期・エリア等)及び参加店舗募集 ・旬彩ごほうびフェアパンフ作成 ・食の誘客コンテンツイベント内容検討及び実施に係る企画コンペ実施(7/28) ・新型コロナ感染拡大に伴う食の誘客コンテンツイベント実施方法見直し検討 ・食のまちづくりセミナー開催準備 ・食のまちづくり関係者打合(9/14) ・食のまちづくりチーム候補者へのインタビュー、メンバー選定	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・フェアの集客増に向けた取組 ・誘客コンテンツ造成に向けた食のまちづくりチームの活動推進 ・食のまちの核となる人材の育成	・旬彩ごほうびフェアの開催(10月、1カ月間) (奥州市、花巻市、遠野市を追加 19店舗⇒29店舗に拡大) ・フェアPRのための取組(パンフ配布、専用HP、フェイスブック、ツイッター) ・食のまちづくりセミナーの開催(10/28) ・食のまちづくりチームによる食の誘客コンテンツ造成に向けた検討 ・シェフ交流ディナーの開催(2月・実施方法を見直して開催) ・着地型旅行商品造成に向けた旅行会社招請 ・次年度フェアのあり方及び食のまちづくりチームの取組内容検討
② 国内外への取引拡大の推進	・商談会での取引成立件数： 目標115件	(1) 商談会等を活用した販路拡大 ○県主催商談会への出展支援 ○仙台圏販路拡大事業の実施 ○中京圏社食フェアの開催支援 (2) インターネット通販の取組拡大 ○インターネット通販参画支援セミナー(ビジネス交流会での講演会)の開催 (3) 地域食材の輸出拡大 ○釜石港国際物流ルート構築実証実験	・県主催商談会出展支援(6/7盛岡 31社参加、7/13名古屋 6社参加) ・岩手県産(株)との仙台圏販路拡大事業委託契約(7/29(株)日本アクセス商談会 8社出品) ・(株)豊田自動織機社食フェア(5/24～6/16、6/7～11) ・(株)デンソー社食フェア(5/24～6/18) ・銀座「ロックフィッシュ」食材取引商談支援(6/6 エーデルワイン、一関ミート等) ・輸出商社(株)宇奥ジャパン)企業視察アテンド(7/1～7/2 上閉伊酒造、世嬉の一酒造等) ・インターネット通販参画支援セミナー(2月)は中止 ・白金運輸(株)との実証実験委託契約及び参加企業募集(4月～2月) 1回目(6/18出港、3社混載、上海・大連) 2回目(8/6出港、4社混載、上海・大連・香港) 実証参加に向けた調整(団体・企業訪問17社)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・県主催商談会への参加企業数減に伴う取引成立件数の減少	・県主催商談会出展支援(11/10大阪、2/8仙台、2/16～18東京) ・仙台圏販路拡大事業の実施(1月国分東北(株)商談会、仙台圏バイヤー対象モニタリング(10～1月)、ビジネス交流会招請(2月)中止に伴う内容見直し) ・中京圏社食フェア(アイシン精機(株)、(株)豊田自動織機 11月頃) ・食クラネット会員の通販サイト参画状況の把握と南いわて食産業アドバイザー派遣の働きかけ ・小口混載輸送実験(10月、3回目予定) ・花巻工業クラブでの実証事業PR ・3か年の検証結果公表と次年度の取組検討

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
③「南いわて食産業クラスター形成ネットワーク」を生かした企業力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> 企業間連携プロジェクト支援件数(累計): 目標21件 ネットワーク組織参加団体数: 目標410団体 	<p>(1) 食クラネット連携体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会、定例総会、ビジネス交流会の開催 ○ネットワークを活用した連携ビジネスの創出及び取引拡大の推進 <p>(2) 個々の企業の経営課題への解決支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門家派遣事業(マーケティング、情報発信、HACCP) ○HACCP導入支援(保健所主催説明会等の周知) 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回運営委員会書面審議(5/13) 定例総会書面審議(6/1) 食クラネット課題別研究会設置に係る検討(ビジネス交流会の集合開催(2月)は中止) <ul style="list-style-type: none"> 専門家派遣(9月30日現在) マーケティング: 5社、HACCP: 2社⇒計7社 保健所主催HACCPワークショップ開催支援(9/30・県南3社参加) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業間連携ビジネスの働きかけ 企業連携の活発化を図るための食クラネット運営体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 食クラネット運営委員会開催(10月(3会場での分散開催)、2月) ビジネス交流会(2月・集合開催中止) ビジネス交流会集合開催中止に伴う実施方法の見直し(運営委員と協議) 食クラネット運営体制の見直し(課題別研究会の持ち方について運営委員と協議) 専門家派遣(通年) 保健所主催HACCPワークショップ開催支援(10/27、11/24)

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	Ⅲ 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	重点施策	8 文化芸術を生かした地域づくりを進めます		
	重点指標				現状(2017)	目標値(2021)
	公立文化施設における催事数(件)					562件

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①伝統文化・民俗芸能・伝統工芸等の魅力発信	・世界遺産等の来訪者数： 目標226.9万人回	(1) 「平泉の文化遺産」の価値・魅力の発信 ○平泉の価値魅力発信のためのラジオミニ番組の制作・放送及びPR ○平泉の価値や魅力発信のため制作した紙芝居動画の公開・広告、幼稚園等での出前授業の実施 (2) 伝統産業の販路拡大促進や魅力発信 ○デザイン、販路拡大、商品開発等のセミナー開催支援(再掲) ○オープンファクトリー五感市実行委員会に参画し、五感市の発展拡大を支援(再掲)	・ラジオミニ番組制作・放送受託者選定・契約 ・番組PRチラシ作成・配布(1800枚 100箇所)、SNS等で情報発信 ・紙芝居動画「みんな なかよし ひらいずみ」のお披露目(平泉幼稚園)と県公式YouTubeチャンネルでの公開(6/23)、各種SNS等での情報発信 ・紙芝居動画のインストリーム広告(第1期:6/23～7/22)実施 ・管内小中学校へのラジオミニ番組及び紙芝居動画ポスター掲出依頼及び幼稚園・保育所等への紙芝居動画活用依頼 ・いわて県南エリア伝統工芸協議会役員打合せ出席、セミナー開催に係る調整(再掲) ・五感市オンラインツアー(8/23)開催補助(再掲) ・オープンファクトリー五感市実行委員会役員会への出席、実施事業の調整(再掲) (オープンファクトリー周遊型は中止)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・イベントの延期や中止が相次ぎ観光客が減少 ・世界遺産平泉の価値の普及と交流人口拡大のため、引き続き県内外への情報発信を行うことが必要	・平泉世界遺産ガイド施設オープン(11/20)に合わせ、ミニ番組を再放送(11/21、28、12/5各1時間総集編) ・紙芝居動画のインストリーム広告(第2期:11/20～12/19予定)によるPRを実施 ・いわて県南エリア伝統工芸協議会の人材育成事業として、セミナーを開催(時期、内容等調整中)(再掲) ・通年型オープンファクトリー実施(参加10社、時期調整中)(再掲)※他事業者とのコラボによる受入れも検討 ・オープンファクトリー中止に伴うメッセージ動画等制作補助(再掲)
②文化芸術と触れ合う機会の創出	・文化施設入場者数： 目標87.2千人 ・文化芸術活動研修会参加者数〔累計〕： 目標75人	(1) 伝統文化・民俗芸能の魅力発信や文化芸術と触れ合う機会の創出(再掲) ○県文化芸術コーディネーター(CD)設置による相談、情報収集・発信等への支援 ○若者文化振興事業費補助金による文化芸術活動の支援と機会の創出 (2) 文化芸術CD、関係機関のネットワーク強化と研修会等の開催 ○文化ホール催事企画の充実に向けた研修会を開催 (3) 文化芸術への参加意欲の醸成と情報発信 ○「いわての文化情報大辞典」等での情報発信	・県文化芸術CDによる文化団体や施設の活動支援:9件(法人設立、教室開催、文化施設活用方法等の相談対応等) ・CD制度の関係機関への周知・活用依頼(7月) ・事業実施希望者公募・決定 ・第1回文化芸術活動支援ネットワーク会議開催(9/30)(テーマ:「ウイズ・コロナの現在とこれから」とした講演と情報交換) ・「いわての文化情報大辞典」や振興局のSNS等での情報発信(9/30現在:大辞典FB投稿 45件)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・文化施設の入場者・利用者が大きく減少していることから、ウイズ・コロナ下での対応の検討や催事企画力の向上が必要 ・県民が文化芸術に触れる機会の創出が必要	・文化芸術CD等関係機関と連携した活動支援と情報発信を実施 ・一部延期となっている補助事業の実績確認及び補助金交付事務 ・第2回文化芸術活動支援ネットワーク会議開催(10/28)(テーマ:「ウイズ・コロナ下での文化ホールのあり方、プログラム企画立案」) ・文化芸術CDと連携した情報発信
③地域の文化財や文化芸術活動の魅力伝える人材の育成	・講習会参加者数〔累計〕： 目標150人	(1) 地域の文化財や文化芸術活動の魅力伝える人材の育成 ○ボランティアガイド研修会等の開催	・研修会内容検討のための関係団体聴取(6/30文化振興課、古都ひらいずみの会) ・ガイドセンター見学に係る本庁との調整 ・観光ガイド団体の活動状況確認(平泉町、岩手県観光ボランティアガイド連絡協議会)	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・コロナ収束後の交流人口拡大に向けた取組が必要	・ガイド団体や文化振興課など関係機関と調整のうえ研修会開催検討(内容、時期等) ・オンライン配信併用によりスキルアップ研修会を開催(11月下旬予定)

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	IV 米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を实践する地域	重点施策	9 企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)
	農業産出額(億円)			974億円(2016)	983億円(2020)

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①産地をけん引する企業の経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 水田整備面積：目標14,003ha 企業の経営体の育成数：目標51経営体 集落型農業法人数：目標190法人 認定新規就農者数：目標118人 	<p>(1) 地域農業の効率的な生産体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域農業マスタープランの実践促進 ○ほ場整備事業等による生産基盤の整備 ○農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化の促進 <p>(2) 経営能力の高い経営体育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業の経営体*の育成に向けた支援 ※売上3000万円又は所得1000万円 ○集落営農組織の法人化の促進と経営の高度化の支援 <p>(3) 次世代を担う経営体の育成確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者の確保及び就農後の自立支援 ○青年・女性農業者の活動強化やネットワーク化を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実質化した地域農業マスタープラン(162プラン：花巻38、遠野11、奥州51、一関62)の実践に向けた地方推進会議等の開催 工事が完了した農地の引き渡し(180ha：花巻15ha、奥州145ha、一関31ha)、地元説明会や事前審査会の実施、新規採択に向けた調査計画の推進 工事の上半期発注(契約件数43/71件) 建設関連業務委託の発注(契約件数80/95件) ほ場整備地区営農推進サポートチーム会議等の開催、農地の集積・集約化を推進するためモデル地区(6地区：花巻3、遠野1、奥州1、一関1)の設定 中心経営体である法人の今後の意向確認、農地中間管理事業等による農地集積等に係るモデル地区への助言 重点指導農業者の選定及び意向確認、支援経営体候補リストの更新、個別指導の実施 企業の経営体育成候補を選定(52経営体：花北27、遠野8、奥州16、一関9) 専門家と連携した課題解決指導の実施により、1経営体が法人化(奥州) 重点支援集落営農組織に対する法人化や園芸導入等の支援 集落営農組織2組織(奥州：農事組合法人 小山東、農事組合法人 南津田イレブン)が法人化、1組織(奥州：恩俗油地営農組合)が年度内に法人化の見込み(R3目標19組織〔R2累計実績171組織、R2法人化9組織〕) 新規就農者確保のためワンストップ就農相談窓口等の設置、新規就農現地見学会等の開催(相談者延べ71名、相談回数103回) 新規就農者の就農計画作成、達成に関する支援 オンラインを活用した新規就農相談窓口の設置(8月～隔月) 先進農家による新規就農者の技術習得支援 女性グループ等に対する補助事業導入支援(幸せ創る事業・花巻5グループ) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落営農法人の収益力向上が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 地域農業マスタープランの実践に向けた推進チーム活動の支援 ほ場整備工事の進捗管理 新規採択に向けた調査計画の推進、営農計画策定支援 モデル地区を中心に、継続した話し合いを支援 いわて経営相談センターと連携した、育成対象への経営計画作成支援等 専門家派遣等による課題解決の支援 経営発展研修会の開催(10～12月) 集落営農組織の発展段階に応じた法人化及び重点支援組織の支援 集落営農法人情報交換会の開催(8/30→延期12(～1)月) オンラインを活用した新規就農相談窓口の設置(10月、12月、2月) 就農準備から就農後フォローアップまでの各地域独自の『就農支援システム』による早期自立を支援 青年・女性農業者向け研修会等の実施

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
②競争力の高い米産地の育成	<ul style="list-style-type: none"> 県オリジナル新品種販売数量：目標4,240 t 	<p>(1) 新品種等県産米の早期ブランド確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「金色の風」、「銀河のしずく」等の高品質・良食味米生産体制強化 ○生産販売・流通体制の構築支援 <p>(2) 水田農業の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低コスト生産技術の普及促進 ○スマート農業技術の導入促進 ○土地利用型作物等の生産性向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> 「金色の風」「銀河のしずく」栽培研究会の活動支援(巡回指導、技術情報の発行等)、栽培実証圃(5ヶ所:遠野1、奥州4)の設置 「金色の風」栽培研究会現地研修会(奥州・一関合同、1回・34名) 「銀河のしずく」生産者マイスターの登録(5名・花巻) 「金色の風サポーター」の登録(80名、うち新規10名)とPRグッズ送付による新米PR協力依頼 レベルアップ検討会(3回)、及びオンライン意見交換会の開催(6/23、28名参加・うちサポーター6名) 「金色の風サポーター」15名を対象としたR3年産米求評用サンプルの送付とアンケート調査の実施 低コストモデル経営体(4経営体、奥州2、一関2)の選定、栽培技術等管理指導 直播等面積調査(9月)・・・486.1ha 水位・水温センサーの設置(12ヶ所:花巻2、奥州5、一関5)、実証実施(5月～9月) 自動操舵トラクター導入(8台)に向けた事業申請手続き(一関) リモートセンシング技術等の活用による食味の向上、小麦(花巻)の刈取適期判断 新たな土地利用型作物の実証圃設置(奥州6ヶ所:大豆5ヶ所、加工用ばれいしょ1ヶ所) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 調製方法の一部見直しによる「金色の風」の品質・食味向上の取組が具体化している。 <p>【主な課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 栽培実証ほ収量調査(10月) R4年度の作付経営体募集(10～12月) 産地PR動画完成(11月末) 市町と連携したイベントでの新米キャンペーンと地元情報誌でのPR(10～11月) レベルアップ検討会の開催(11月) R3年産「金色の風」求評結果の集約、第2回オンライン意見交換会の開催(年内) 低コストモデル経営体の経営改善の支援活動と連動した指導(継続) スマート農業技術の体系的な実証による技術の定着支援 自動操舵トラクター導入に係る手続き(割当内示10月、交付決定11月) 次期作(たまねぎ・麦・大豆・ばれいしょ等)の栽培計画指導
③園芸産地の生産構造の強化	<ul style="list-style-type: none"> 重点園芸品目の系統販売額：目標4,918百万円 販売額1,000万円以上の園芸農家戸数：目標89戸 	<p>(1) 産地の中核を担う経営体の経営拡大促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設園芸団地や土地利用型団地の形成促進、大規模経営体の育成 ○スマート農業技術の導入等による生産性向上支援 ○労働力の安定確保体制の構築 <p>(2) 実需者ニーズに対応した生産出荷等による産地拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産地リーダーが主体となった園芸品目毎の実践プランの取組を支援 ○花き・園芸の実需者ニーズに対応した品種構成等の見直しや生産性向上の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて型野菜トップモデル産地創造事業(県単)」により整備された6団地(ピーマン、トマト、たまねぎ、ねぎ)に係る各産地の集中支援チームによる栽培管理指導の実施 ねぎ排水対策実証圃の設置(奥州1ヶ所)、実演会開催(4/15、40名) 若手野菜経営体に対する技術・経営の重点指導(随時) 環境モニタリングシステム機器導入のため事業活用や環境制御機器を整備した農家の管理指導の実施 パワーアシストスーツによる果樹作業の省力化実証(花巻) JA無料職業紹介所等の求人募集の周知や雇用情報等の提供 農福連携による農作業実証や農福連携支援員による農家と福祉事業所のマッチング(福祉事業所8施設(新規4施設)、受入農家等12経営体(新規2経営体)) 産地支援行動計画に基づき、産地リーダーが主体となった園芸品目毎の実践プランの取組を支援 重点園芸品目(トマト、きゅうり、ピーマン、なす、アスパラガス、ねぎ、りんどう、小ぎく)等に係る栽培指導会(随時)、難防除病害虫対策検討(随時)等による支援 ジョイント栽培実証圃設置(奥州1ヶ所) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 転作田における排水対策を徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設園芸団地や土地利用型団地の形成、大規模経営体の育成に向けた「地域集中支援チーム」による支援 「野菜販売額1億円産地」モデル拠点の事業計画達成に向けた取組支援 環境制御技術等のスマート農業技術に係る生産性向上支援、検証分析 安定した労力確保のため、JA無料職業紹介所等との連携や、福祉事業所と農家とのマッチングを支援 産地リーダーが主体となった園芸品目ごとの実践プランの取組(現地指導回、技術・経営指導、情報共有等)を支援 生産性向上に向けた機械等の導入支援

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期の進捗状況	今後の取組																																										
④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖牛20頭以上の経営体数：目標171経営体 	<p>(1) 担い手の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新技術の導入や飼養管理方式の改善を支援 ○素牛導入、施設整備等による生産基盤の強化 ○牛伝染性リンパ腫等の感染防止体制整備、暑熱ストレス低減の技術普及 <p>(2) 外部支援組織の強化・有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャトルセンターの機能強化・運営支援、公共牧場へのICT技術促進等 ○良質な自給飼料確保のためのコントラクター組織の育成・強化 	<ul style="list-style-type: none"> 酪農・肉牛サポートチームによる飼養管理等改善指導(随時) 畜産公共事業等を活用した施設整備や家畜導入の支援〔草地基盤整備事業:奥州、生産基盤拡大加速化事業(繁殖・肥育素牛導入):奥州、畜産クラスター事業:遠野、一関〕 乳房炎ワクチンの活用を管内全域に支援し、新たに3経営体が取組開始(ワクチン活用農家 奥州5経営体) 牛伝染性リンパ腫の対策を行うモデル農家(一関4経営体)、公共牧場(奥州・一関)、キャトルセンター(奥州)への分離飼養等の指導(防虫ネット設置、アブキャップ設置、アブジャケット着用) 暑熱対策モデル実証(遮熱シート設置)により牛房温度が2℃低減し、周期とおりに発情がみられ、人工授精実施頭数が昨年度同時期に比べ8頭増(肉用牛) キャトルセンターの飼養・衛生管理技術向上の取組 良質な粗飼料を確保するための肥培管理・草地更新指導、受胎率改善に向けた飼料設計支援 BLEタグによる放牧省力化支援、ドローンと人工知能を活用した、採草地の植生診断と改善対策(草地更新)の提案(奥州) 広域コントラクター(県農業公社)と地域コントラクターの作業調整(作業スケジュールに合わせた品種選定、肥培管理、作業分担) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により対面で行えていない、市場相談窓口の代替機能が課題 	<ul style="list-style-type: none"> サポートチームの巡回指導等により、飼養管理方式の改善を支援 生産性を阻害する要因(牛伝染性リンパ腫等)の感染防止の体制整備、効果の検証 遮熱シートの寒冷対策効果も調査 担い手の規模拡大を促進するためキャトルセンターの機能強化や管理技術向上等を支援 ICT技術利用による公共牧場の管理技術向上支援 																																										
⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化の促進	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発等の支援による6次産業化件数：目標9件 	<p>(1) 農畜産物ブランドの評価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域特産物のブランド化支援、PR活動支援 ○ブランド化のためのGAP認証取得、確認・登録の促進 	<p>〔二子さといも(北上)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた栽培管理指導(随時)及び種芋確保のための貯蔵方法の試験データを生産者向け情報誌に掲載し情報共有 〔西わらび(西和賀)〕 G I 認証申請に向けた関係機関打合せ2回、わらび選別等研修会開催(5/31、11名)、わらび原種圃設置(1ヶ所)〔りんご(奥州)〕 「奥州ロマン」「江刺ロマン」の品種特性把握実証圃の設置(2ヶ所)、栽培マニュアル発行に向けた協議(J A 江刺りんご部会品種栽培班、8/6) 県版GAP審査指導(奥州経営体) 「金色の風」栽培研究会のA S I A G A P (団体認証)に向けた農場個別指導(計4回)、団体事務局指導(5/31)(一関) G A P 概要説明や研修会の開催(株エーデルワインや農事組合法人、花巻農業高校、ばれいしょ農家等) <p>■ G A P 認証等取得状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>GAP種類</th> <th>花巻</th> <th>遠野</th> <th>奥州</th> <th>一関</th> <th>県南計</th> <th>県計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グローバル</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>JGAP</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>県版GAP</td> <td>7</td> <td></td> <td>11</td> <td>3</td> <td>21</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>39</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	GAP種類	花巻	遠野	奥州	一関	県南計	県計	グローバル	1			1	2	5	アジア			1	2	3	3	JGAP	5	1	1	6	13	20	県版GAP	7		11	3	21	52	計	13	1	13	12	39	80	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> G A P への関心の高まりに係るフォロー対応を検討していく必要がある。 食品衛生法改正に対するフォロー対応を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 西わらびの地理的表示保護制度(G I)登録に向けた指導支援 奥州ロマンの改植計画の方針推進、栽培マニュアル発行(年内発行) 江刺ロマンのデータとりまとめ、J A りんご部会との情報共有 G A P の認証取得等の促進
GAP種類	花巻	遠野	奥州	一関	県南計	県計																																									
グローバル	1			1	2	5																																									
アジア			1	2	3	3																																									
JGAP	5	1	1	6	13	20																																									
県版GAP	7		11	3	21	52																																									
計	13	1	13	12	39	80																																									

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化の促進(つづき)		(2) 地域資源の高付加価値化 ○6次産業化及び起業化、経営改善支援 ○産直の運営改善、食品衛生法改正に伴う衛生管理の取組等の支援	・地元の食品企業等のニーズに対応した商品開発等の6次産業化の取組支援 花巻：ハコショウ食品 遠野：宮守川上流生産組合 奥州：いさわ産直センター 一関：きんいろパン屋 ・食品開発基礎講座の実施(6～7月、計4回、延べ179人) ・食品衛生法改正に係る産直・小規模向け研修会開催(奥州：5/17、51人)		・地元の食品企業等のニーズに対応した商品開発等の6次産業化の取組支援 ・食品衛生法改正に伴う衛生管理等セミナー(8月→2月)営業許可届出等セミナー、法改正対応による起業者等の意欲向上のための研修会(2月)
⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化	・地域ビジョンに基づく実践活動実施集落数：目標15集落 ・地域協働活動による農地等の保全管理への参加人数：目標59,534人/年 ・グリーン・ツーリズム交流人口：目標500千人回	(1) 交流連携による農村地域の活性化 ○中山間地域の活性化に向けた「地域ビジョン」の作成・実践支援 ○企業や都市住民等と農村との協働・連携活動の促進 ○都市住民等と農村の交流促進 ○食文化・農村文化の維持・継承 (2) 地域協働による農村資源の維持・保全 ○日本型直接支払制度の活用等による地域の生産基盤、多面的機能の維持・保全体制の構築 ○農業水利施設の防災減災対策や補修・更新 ○総合的な鳥獣被害防止対策の取組促進	・「地域ビジョン」策定を志向する地区との打合せ実施2回、補助事業の導入支援(奥州：新規策定1地区) ・「世界・日本農業遺産」の再申請に向けた取組を通じた地域活性化支援(奥州・一関) ・東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会の運営(総会(6/1)、幹事会(5/21)) ・世界農業遺産認定推進協議会企画推進室の開設(設置期間：7/26～R4/3/31) ・農村トラスト制度 [※] への参加企業：0社(新型コロナウイルス拡大の影響により、首都圏企業2社が今年度の参加を見送り) [※] 企業による応援型社会貢献プログラム ・各グリーン・ツーリズム協議会等の新型コロナ対応、県内からの受入再開支援(花巻) ・食の匠のDVD作成開始(遠野、花巻)、前年度作成したDVDの図書館等への提供(花巻：3月に県立図書館へ提供、奥州：5/28提供。貸出実績は奥州市立図書館12回、各地区センター計78回) ・日本型直接支払制度の実施手続き支援 ・農業水利施設の防災減災対策の円滑な実施 ・被害予測条件等の情報提供による防災重点ため池ハザードマップ作成支援(R3作成事業認定69ヶ所：花巻15、奥州45、一関9) ・各市町の鳥獣被害防止対策への助言、鳥獣被害防止総合支援事業の円滑な実施に向けた計画書作成支援等	【進捗状況】 順調 【主な課題】 ・コロナ収束後の交流促進活動への支援の在り方を検討していく必要	・「地域ビジョン」策定集落の実践支援 ・東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会の認定申請支援 ・東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会の運営 ・地域説明会の開催(3地区：10/28、11/2)、有識者等との意見交換会の実施(10月) ・参加企業等の新たな掘起しに向けた農村トラスト制度PRに係る委託契約(10月) ・コロナ収束を見据えたグリーン・ツーリズムや農家民宿の取組支援 ・体験コンテンツ作成のための農家民宿ワークショップの実施(全5回予定) ・食の匠のDVD作成(奥州：10月予定)、配布 ・日本型直接支払制度の有効活用支援(中山間：集落戦略策定支援、環境：電子申請手続支援) ・防災重点ため池の耐震診断、ハザードマップ作成支援及び機能診断結果に基づく補修・更新支援 ・地域ぐるみによる総合的な被害防止対策の支援

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組																					
⑦その他		<p>○R2.12大雪被害対応 (管内全域)</p> <p>○R3.4 凍霜害対応 (花巻市、北上市、奥州市、一関市、平泉町)</p> <p>○R3.6 降雹害対応 (花巻市、奥州市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「被災農業者緊急支援事業にかかる説明会」を開催、関係公所等へ事業概要を周知(2/15、16) 事業要望調査や県、市町、JA等が連携し事業導入支援 事業申請経営体数：997経営体（花巻：36、北上：155、遠野：4、西和賀：3、奥州：480、金ケ崎：140、一関：162、平泉：17) 事業費計：2,083,721千円 水稲苗は相互支援により必要数を確保 <p>「凍霜害担当者会議」を開催、関係公所等へ事業概要を周知(6/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農作物災害復旧対策事業の要望調査 事業要望 234.7ha、事業費計 180,212千円 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域名</th> <th>実施面積(ha)</th> <th>事業費(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>花巻(花巻市・北上市)</td> <td>28.4</td> <td>6,804</td> </tr> <tr> <td>奥州(奥州市)</td> <td>126.9</td> <td>162,620</td> </tr> <tr> <td>一関(一関市・平泉町)</td> <td>79.4</td> <td>10,788</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 農作物災害復旧対策事業の要望調査 事業要望 154.1ha、事業費計 8,860千円 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域名</th> <th>実施面積(ha)</th> <th>事業費(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>花巻(花巻市)</td> <td>125.2</td> <td>6,849</td> </tr> <tr> <td>奥州(奥州市)</td> <td>28.9</td> <td>2,011</td> </tr> </tbody> </table>	地域名	実施面積(ha)	事業費(千円)	花巻(花巻市・北上市)	28.4	6,804	奥州(奥州市)	126.9	162,620	一関(一関市・平泉町)	79.4	10,788	地域名	実施面積(ha)	事業費(千円)	花巻(花巻市)	125.2	6,849	奥州(奥州市)	28.9	2,011	<p>【進捗状況】 順調</p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 凍霜害、降雹被害については、来年度の影響把握を行っていく必要 	<ul style="list-style-type: none"> 県単事業の導入支援 年度内完了に向けた市町村への支援、進捗管理の徹底 農作物災害復旧対策事業の導入支援(交付申請10月中旬以降) 農業者向け説明会の実施(一関：10月) 農作物災害復旧対策事業の導入支援(同上) 管内各公所において、凍霜害・降雹被害果の直売を実施(10～12月)
地域名	実施面積(ha)	事業費(千円)																								
花巻(花巻市・北上市)	28.4	6,804																								
奥州(奥州市)	126.9	162,620																								
一関(一関市・平泉町)	79.4	10,788																								
地域名	実施面積(ha)	事業費(千円)																								
花巻(花巻市)	125.2	6,849																								
奥州(奥州市)	28.9	2,011																								

地域振興プラン (2019～2022)	圏域の振興施策の基本方向	IV 米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	重点施策	10 森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します		
	重点指標			現状(2017)	目標値(2021)	
	木材生産額(百万円)			5,120	5,180	

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
①森林・林業の理解促進やイメージアップによる担い手の育成・確保	・林業技能者(累計)：目標200人	<p>(1) 森林・林業への理解醸成や就労者の確保 ○講座や現場体験の実施</p> <p>○苗木のスクールステイ実施</p> <p>(2) 知識と技術を備えた現場技術者の育成・確保 ○技術研修の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> 花巻森組職場見学会の開催(花巻：8/2 1名) 県就業支援員と情報交換(花巻：6/14、7/1) 職業学習のためのアンケート実施(奥州：6校) 職業学習のための学校訪問(奥州：3校) 森林・林業体験講座・現場体験(奥州：中止) いわて林業アカデミー修了生と管内高校生等の懇談(遠野：中止) 林業アカデミーオープンキャンパス参加(7/27、28 5名) 林業アカデミー畑わさび研修支援(遠野：4/19) R5全国植樹祭に向けた苗木のスクールステイ(小学校対象)を通じた森林環境学習の実施(花巻：1校遠野：10校、一関：2校) 森林経営専門家派遣研修(県南：6/25) 伐木技術普及研修の開催(遠野：9/28 9名) 先進地事例調査(久慈)の実施(花巻：5/12、6/7) 林業労働力災害防止対策の徹底 現場指導実施(県南：8/10、30、9/7) 	<p>【進捗状況】順調</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で体験講座・現場体験・研修会が一部中止・延期 <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労確保の取組を継続的に行うための関係機関等との連携強化 労働災害防止のための、伐木等技術及び安全意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 県就業支援員と連携した就業支援活動の実施(花巻：11月～企業見学会、授業 主催：就業支援員) 森林・林業体験教室の実施支援(一関：12月) 小中学生を対象とした森林教室・作業体験(一関10/15、11/1、11/12) 職員による苗木の生育状況確認 伐木技術普及研修の実施(花巻：10/26、奥州：11/25、一関：11/30) 若手職員育成研修会(花巻：次年度に延期) 現場パトロールによる注意喚起

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期の進捗状況	今後の取組																																						
② 森林施業の集約化の促進や情報通信技術(ICT)の導入等による林業経営の効率化	・ 森林経営計画認定実績： 目標57,000ha	<p>(1) 「意欲と能力のある林業経営体」を育成・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林施業プランナーの育成 ○機械設備の導入支援 ○経営基盤強化支援 ○新規事業体への経営指導 <p>(2) 効率的な林業経営のための森林施業集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林経営計画の作成支援 (ha) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2.7月</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奥州</td> <td>7,454</td> <td>9,200</td> </tr> <tr> <td>花巻</td> <td>10,023</td> <td>12,800</td> </tr> <tr> <td>遠野</td> <td>12,369</td> <td>14,200</td> </tr> <tr> <td>一関</td> <td>18,915</td> <td>23,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>48,761</td> <td>60,000</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○森林経営管理制度に係る市町支援 (千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>市町名</th> <th>贈与税 R2実績</th> <th>支援内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>花巻市</td> <td>49,286</td> <td rowspan="8">実施方針の策定支援</td> </tr> <tr> <td>北上市</td> <td>18,406</td> </tr> <tr> <td>遠野市</td> <td>67,404</td> </tr> <tr> <td>一関市</td> <td>90,454</td> </tr> <tr> <td>奥州市</td> <td>49,130</td> </tr> <tr> <td>西和賀町</td> <td>14,056</td> </tr> <tr> <td>金ケ崎町</td> <td>3,468</td> </tr> <tr> <td>平泉町</td> <td>2,856</td> </tr> </tbody> </table>		R2.7月	R3目標	奥州	7,454	9,200	花巻	10,023	12,800	遠野	12,369	14,200	一関	18,915	23,800	合計	48,761	60,000	市町名	贈与税 R2実績	支援内容	花巻市	49,286	実施方針の策定支援	北上市	18,406	遠野市	67,404	一関市	90,454	奥州市	49,130	西和賀町	14,056	金ケ崎町	3,468	平泉町	2,856	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業体を対象とした研修準備 (奥州) ・ 林業成長産業化構想技術者育成研修 (奥州：1名) ・ 林業成長産業化総合対策事業 ハーベスタ1台導入 (奥州：6/29 交付決定、7/1 着手) グラップルソー1台リース (花巻：交付決定7/6) ・ 管内3森林組合長との意見交換 (花巻：4/14) ・ 森林組合経営検討委員会 (奥州：4/27、8/2 花巻：7/27) ・ 森林組合月例会の開催 (奥州：6/28、7/29、10/1) ・ 森林組合職員スキル向上勉強会 (奥州：7/29、8/31、10/1) ・ 事業主改善計画の作成指導・進達 (奥州：1社) ・ 意欲と能力のある林業経営体への登録・更新に向けた働きかけ (一関：2社) ・ 素材生産新規参入事業体指導 (遠野：1社) ・ 県有林伐採跡地における経営計画説明会 (県南：5/14) ・ 森林整備地域活動支援交付金事業交付決定 (花巻：7/26 77.21ha) ・ 林業事業体の森林経営計画作成に係る指導・助言 (花巻：1社、一関：1社) ・ システム構築推進員と連携した市町の指導 (奥州市2回、金ケ崎町2回、花巻市3回、北上市2回、一関市2回、平泉町1回、遠野市2回、西和賀町5回) ・ 他県委託情報提供 (遠野：9/17) ・ 意向調査林分の情報提供 (奥州：7/16) ・ 平泉町実施方針策定 (HP公表6/8) ・ 第1回地区対策会議 (一関：7/8) 	<p>【進捗状況】 順調</p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業事業体の経営基盤の強化が必要 ・ 森林経営計画の策定 ・ 森林の経営管理に関する意向調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得に向けた勉強会の開催 (一関 12月) ・ 事業の適正な実施に向けた進捗管理 ・ 生産性向上に向けた個別指導 (花巻) ・ 森林組合検討委員会 (奥州、花巻) ・ 森林組合職員スキル向上勉強会 (奥州：月1回) ・ 伐採、コスト分析に係る研修実施 (奥州) ・ R3年度内の意欲と能力のある林業事業体登録に向けた指導・助言 (一関) ・ 林業事業主改善計画の作成指導 (遠野) ・ 年度内の計画認定を目指し県が森林組合等に継続指導 ・ 一関地方森林組合と森林経営計画策定に係る打合せ (一関：10/13) ・ 市町への実施方針の策定支援・意向調査の実施に対する支援及び意向調査後の対応検討 ・ 遠野市が実施する宮守町地区説明会への支援 (遠野：年内) ・ 森林経営管理制度対策について管内打合せ 第2回地区対策会議 (一関：12月)
	R2.7月	R3目標																																									
奥州	7,454	9,200																																									
花巻	10,023	12,800																																									
遠野	12,369	14,200																																									
一関	18,915	23,800																																									
合計	48,761	60,000																																									
市町名	贈与税 R2実績	支援内容																																									
花巻市	49,286	実施方針の策定支援																																									
北上市	18,406																																										
遠野市	67,404																																										
一関市	90,454																																										
奥州市	49,130																																										
西和賀町	14,056																																										
金ケ崎町	3,468																																										
平泉町	2,856																																										

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
③低コスト林業の推進や未利用資源の有効活用による木材の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再造林面積：目標190ha ・ 県産材供給量：目標511千m³ 	<p>(1) 安定供給のための林業・木材産業等関係者間の情報共有及び公共施設や非住宅等への木材利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ○ 公共建築物等整備支援 ○ 木材利用のPR ○ 木質バイオマス利用の普及啓発 <p>(2) 低コスト林業のため、一貫作業及び搬出技術等の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一貫作業の促進 R2繰越 15.8ha、R3 15.0ha ○ 森林整備(造林) 165.27ha ○ いわて環境の森整備事業(森林環境再生造林) ○ 生産間伐の実施 R1事故繰越4.89ha R2繰越 180.89ha、 R3 186.47ha ○ 路網整備 林道(林業専用道含む) R1繰越 126m R2繰越 1,681m R3 220m 作業道 R1事故繰越 1,427m R2繰越 23,940m R3 21,975m 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ・ウッドショックの影響に関する聞き取り(奥州5社、遠野4社、一関4社) ・ 花巻市木材利用促進協議会総会(書面開催) ・ 花北地域木材安定供給促進会議(7/19) ・ 森林のくに遠野・協同機構定例会(遠野：5回) ・ 経営管理指導事業導入決定(遠野：9月) ・ 南いわて暮らしセミナー打合せへの参加事業体決定(遠野：8/20) ・ 林業・木材産業成長産業化事業(R2繰越)完了確認(花巻：7/28 黒沢尻幼稚園(北上市)) ・ いわてヤタイ貸出6件(貸出先4者)花巻 ・ “地域の木”身近に木づかい促進事業 出張おもちゃ美術館委託契約締結(一関：9/28 親子15組) 地域材ワークショップ(花巻、遠野、一関：中止) 地域材ワークショップ打合せ(奥州：8/3、9/6、9/28) ・ チップボイラー導入に関する補助要件等周知(花巻：9/10 富士大学、(株)いわてウッドパワー) ・ 地域エコシステム構築推進第1回地域協議会に参加(花巻：8/25) ・ 事業再構築補助金(経産省)に係る情報収集(遠野：仲山林業) ・ 一関市内のバイオマス発電計画に関する情報収集及び地域課題等助言(一関：4回) ・ 低コスト林業技術研修、技術力維持・向上対策研修への参加要請 ・ 県行造林土地所有者への伐採跡地の再造林を働きかけ(花巻：7/16) ・ 森林整備事業(造林)25.32ha完了 ・ 再造林候補地現地調査(一関：7/13 2箇所) ・ 生産間伐 R1繰越 4.89ha完了(100%) R2繰越 45.13ha完了(25%) R3事業着手 ・ 林道 R1繰越 126m完了(100%) R2繰越 240m完了(14%) R3事業着手 ・ 作業道 R1繰越 1,427m完了(100%) R2繰越 6,265m完了(26%) R3事業着手 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ・ウッドショック等の影響で先行き不透明(需給状況・価格) ・ 出張おもちゃ美術館、ワークショップ開催における地域の幼保施設や学校等のコロナ感染状況を踏まえた対応 <p>【ウッドショック等の影響】</p> <p>県有林公売等の丸太価格は上昇しており、引き合いが強い。事業者への聞き取り内容は以下のとおり。</p> <p>森林組合：影響なし 素材生産業：影響なし 製材・加工業：外材が不足しており、国産丸太の価格が上昇している。 バイオマス：影響なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度内完成に向けた進捗管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県南広域木材需給連絡会議(奥州：12月) ・ 指導事業の実施支援(遠野：開始時期未定) ・ セミナー開催(遠野：10/30) ・ 公共建築物の木造化・木質化を普及啓発(花巻) ・ 第3四半期以降の貸出予定2件 ・ “地域の木”身近に木づかい促進事業 出張おもちゃ美術館の開催(北上：10/11、金ケ崎11/25、遠野11/6) 地域材ふれあい体験会開催(奥州：10/31) ・ 補助事業計画作成指導(花巻) ・ 地域エコシステム推進協議会での指導等(花巻) ・ 個別指導(遠野：10月～) ・ 第1回一関市カスケード利用協働協議会(12月) ・ 処分予定の県行造林所有者への一貫作業に向けた働きかけ ・ 県行造林伐採跡地の再造林に係る森林経営計画の作成指導(花巻) ・ 各事業の適正な実施に向けた調整と進捗管理

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組																								
③ 低コスト林業の推進や未利用資源の有効活用による木材の安定供給(つづき)		<p>(3) 被害材等未利用資源の有効活用を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○樹種転換の促進 特殊地拵 10.24ha ○アカマツの広葉樹林化 19.21ha <p>(4) ナラ枯れ被害防止を図るため、伐採・更新(若返り)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伐採利用の促進 ナラ林健全化 R2繰越 4.72ha、R3 13.49ha <p>(5) 山地災害防止に向けた取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アカマツ100%活用促進事業(花巻) 施工地となる花巻市有林現地確認(4月) 花巻市、森林組合との事業実施に係る打合せ(7/26) 隣接する森林管理署と意見交換(4~6月)、現地検討会(9/28) ・樹種転換6ha予算配分 ・アカマツの広葉樹林化(花巻:2件13.07ha、奥州:1件2.30ha) ・事業実施に向けた打合せ(奥州:6/14、6/16) ・対象森林打合せ(遠野:6/29) ・事業説明(花巻:4月) ・ナラ林健全化促進事業 交付決定(奥州:6/4、9/1、遠野:5/25) ・山地災害防止キャンペーンの実施(5/20~6/30) ・現地パトロール実施(5/31、6/2、8~10、22、25) 	<p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な資源活用に向け被害を拡大させない伐採方法の徹底 ・ナラ枯れ被害の拡大への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約の締結(10月) ・林業事業者への事業実施の働きかけ ・事業の適正な実施に向けた進捗管理 ・アカマツ伐採指針の遵守徹底 ・林業事業者への事業実施の働きかけ ・事業の適正な実施に向けた進捗管理 ・ナラ枯れ被害材等の移動に関するガイドライン遵守の徹底 ・治山施設点検の実施(随時) 																								
④ 特用林産物の産地再生とブランド力の回復	<ul style="list-style-type: none"> ・乾しいたけ植菌本数: 目標129千本 	<p>(1) 原木しいたけの産地再生を図るため、生産体制の整備や後継者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出荷制限解除 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生産再開希望者</th> <th>解除者</th> <th>今後解除予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奥州</td> <td>14</td> <td>12(86%)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>花巻</td> <td>75</td> <td>72(96%)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>遠野</td> <td>34</td> <td>34(100%)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一関</td> <td>52</td> <td>43(83%)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>175</td> <td>161</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○栽培管理指導の実施 きのこ原木処理事業 10,420m² ○原木等生産資材の導入支援 特用林産施設等体制整備事業 原木 R2繰越 68,980本 R3 115,700本 ○岩手県林業成長産業化総合対策事業(雪害復旧) 簡易ハウス2棟 <p>(2) ブランド力回復のため、大消費地への出荷・販売量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元飲食店等への利用・販売促進 ○試食販売会・販路開拓調査 		生産再開希望者	解除者	今後解除予定	奥州	14	12(86%)	2	花巻	75	72(96%)	3	遠野	34	34(100%)	0	一関	52	43(83%)	9		175	161	14	<ul style="list-style-type: none"> ・解除資料提出(ロット追加含む) (花巻3名、奥州2名、一関4名) ・新規生産者の出荷制限解除7/20(花巻2名、奥州2名、一関1名) ・県南広域原木しいたけ生産販売体制強化事業 栽培管理指導(花巻:4/6~7、7/12~15、遠野:7/20~21、9/17) 産地応援隊会議開催(6/2) ・R2繰越完了確認調査 (花巻:8/5 10,780本 一関:7/9 58,200本) ・R3交付決定(遠野:7/5 32,000本) ・交付決定(一関:8/11) ・一関市乾しいたけ品評会開催 審査会運営補助(5/26)、展示・販売会運営補助(JAファーマーズ)(5/28) ・江刺給食センター打合(奥州:8/31) ・原木しいたけ生産・販売に関する生産者意向調査 (一関:6月~、対象者3名、9月末2名終了) 	<p>【進捗状況】<u>順調</u></p> <p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営の継続に必要な原木の確保 ・コロナの影響で対面販売の機会が減少しPR活動の場の確保が困難 ・再生産可能な単価や単収の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋子による解除検査の実施(一関:2名) ・秋子採取に向けた現地巡回指導会 ・西和賀町産原木の活用に向けた収量調査(10月~) ・事業の適正な実施に向けた進捗管理 ・学校給食への利用促進 ・奥州っ子給食に関する市補助の活用に向けた打合せの実施(奥州) ・生産者の取組支援(一関)
	生産再開希望者	解除者	今後解除予定																										
奥州	14	12(86%)	2																										
花巻	75	72(96%)	3																										
遠野	34	34(100%)	0																										
一関	52	43(83%)	9																										
	175	161	14																										

取組項目	指標	取組内容(実施計画)	第2四半期までの取組状況	第2四半期までの進捗状況	今後の取組
⑤地域に根差した特用林産物の生産振興	・林間畑わさび生産量： 目標38トン	(1) 新たな産地形成のため、林間畑わさびの栽培や漆林の造成等を支援 ○栽培面積確保に向けた講習会等開催 ○巡回指導の実施 ○あじさい園支援 ○新たな漆産地の形成検討	・畑わさび産地づくり支援事業 ・初心者向け講習会（遠野：6/15） ・種苗育成研修会、生産者意見交換会（中止） ・モデル圃場委託契約（遠野：9/3） ・モデル圃場現地指導（奥州、一関：9/8） ・区域設定、土壌採取、現地確認・指導（奥州：8/20、8/26、9/8） ・わさび虫害への対策（サンプルを送付し、病害虫防除所からの同定結果提示） ・都営地下鉄への公告（一関 6/11～22） ・開園式開催準備・出席（一関） ・いわて漆振興実務者連絡会議への取組状況報告（一関 6/18）	【進捗状況】 <u>順調</u> 【主な課題】 ・わさび収穫量の安定化 ・県南管内での生産者の掘り起こし	・R2設置モデル圃場調査（遠野：11月） ・パンフレット発注準備（遠野：1月） ・モデル圃場耕起、施肥指導（奥州：11月上旬） ・モデル圃場定植（奥州、一関：10/14） ・先進地（岩泉町）における生産者との意見交換会及び生育環境調査（遠野：11月） ・生産者巡回指導（遠野：11月） ・遊休ほだ場を活用したわさび栽培に向けた働きかけ（随時） ・いわて漆振興実務者連絡会議への出席、情報収集



目指す将来像

人とのつながり、県南圏域の産業集積や農林業、多様な地域資源を生かしながら、暮らしと産業が調和し、世界に向け岩手の未来を切り拓く地域

【令和4年度の取組方向】

<p>I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域</p> <p>【基本方向】</p> <p>① 質の高い医療介護サービスを提供できる体制構築、関係団体との連携による環境保全の取組</p> <p>② 安全・安心な生活を支える社会資本整備・維持管理</p> <p>③ 国際化を見据えた生活環境整備、魅力ある地域づくり</p> <p>1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります</p> <p>【健康づくりの推進】</p> <p>① 生活習慣病の予防に向け、スーパーマーケット等と連携し、健康的な食生活実践のための意識啓発</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数(人口10万人当たり) H28:297.4人→R3:266.9人(男性) H28:152.4人→R3:130.3人(女性)</p> <p>② 心の健康の知識を持ち、地域や職場での見守りができるゲートキーパーの養成等の総合的対策に向けた研修等の開催</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○自殺死亡率(人口10万人当たり)H29:21.5人→R3:17.5人</p> <p>【地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の構築】</p> <p>① 医療・介護・保育職等の人材確保に向け、高校生を対象とした福祉カフェ等の開催</p> <p>【障がい者の自立活動の支援】</p> <p>① 農福連携の推進に向けた障がいサービス事業者と農業者とのマッチング支援</p> <p>【結婚支援対策・子育てしやすい環境整備】</p> <p>① 「いわて子育てにやさしい企業等」認証制度の普及拡大、「いわて子育て応援の店」の協賛店拡充</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○「いわて子育てにやさしい企業等」認証件数(累計) H29:39社→R4:139社</p> <p>2 快適で安全・安心な生活環境をつくります</p> <p>【環境保全の推進・野生鳥獣の保護管理・動物との共生社会の実現】</p> <p>① 「いわて地球環境にやさしい事業所」認定制度の普及拡大、エコスタッフの養成に向けた研修等の実施</p> <p>② 有害鳥獣の個体数管理の役割を担う狩猟者の育成と鳥獣被害防止に向けた普及啓発</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○新規狩猟免許取得件数(累計) H29:116件→R4:616件</p> <p>③ 猫の適正飼養に向けた普及啓発や研修会の開催、譲渡推進に向けたボランティアの育成</p> <p>【安全・安心の確保】</p> <p>① 橋梁の耐震補強や通学路を中心とした歩道整備</p> <p>3 一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります</p> <p>【地域の国際化への対応・地域コミュニティの形成】</p> <p>① ILC関係者など、外国人が安心して医療を受けられる体制の整備に向け、奥州市国際交流協会との連携による医療通訳スタッフを育成する研修会の開催</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○医療通訳研修会修了者数(累計) H29:32人→R4:60人</p> <p>② 関係人口拡大に向け、仙台圏在住の学生・社会人を対象としたワークショップの開催とフォローアップの実施</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○地域活性化イベント等による事業創出数 H29:0(事業/年)→R4:2(事業/年)</p> <p>③ 地域公共交通の維持確保に向けた勉強会の開催</p>	<p>II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域</p> <p>【基本方向】</p> <p>① 地域企業の技術力と競争力の向上等による一層の産業集積の推進</p> <p>② 地域の伝統産業の振興</p> <p>③ 圏域の産業を支える人材の確保・育成・定着</p> <p>1 ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます</p> <p>【ものづくり企業の競争力強化】</p> <p>① ものづくり企業の自動車産業や医療機器産業の参入促進につながる品質マネジメント講座や、企業ニーズに対応したオーダーメイド研修の開催</p> <p>② ものづくり企業の生産性向上の取組支援のため、第4次産業革命技術(IoT等)の高度技術者養成講座の開催による導入支援、盛岡局と連携したIT企業とものづくり企業とのマッチング支援</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○ものづくり関連分野の製造品出荷額 H28:12,910億円→R3:14,900億円 ○東北地域ものづくり関連分野の製造品出荷額における県南地域のシェア H28:12.6%→R3:15.0%</p> <p>【自動車・半導体産業への参入促進】</p> <p>① ものづくり産業アドバイザーによる新規参入・取引拡大に向けた企業指導や勉強会等を開催</p> <p>【伝統産業の振興】</p> <p>① 伝統産業の魅力発信と交流人口の拡大に向けた「オープンファクトリー五感市(ごかんいち)」の開催支援や、参加企業間・異業種とのコラボ商品開発・コラボ企画の展開を支援</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○伝統産業の各種イベント等への来場者数(累計) H29:一人→R4:10,000人</p> <p>【道路整備による産業振興】</p> <p>① 広域的な物流の効率化、生産性の向上につながる道路整備(一関北上線 谷地)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○物流の基盤となる道路整備延長(累計) H29:0m→R4:15,400m</p> <p>2 ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します</p> <p>【人材確保、地域企業の理解促進】</p> <p>① 企業・事業所における人材育成の取組及び働き方改革への支援、企業の採用力向上のための手法や魅力発信等に関する研修会の開催</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○高卒者の圏域内就職率 H29:63.9%→R4:85.0%</p> <p>② 「いわて県南広域企業ガイド」の高等学校等への設置や配布、ホームページ掲載・SNS発信による生徒・保護者等への地域企業の情報提供</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○企業ガイド(サイト)閲覧数 H29:3,782回→R4:4,450回</p> <p>【若者の職業意識・地元志向の醸成、企業の人材育成】</p> <p>① 職業意識の醸成に向け、就業支援員やキャリア教育サポーターによる高校生を対象としたガイダンスや、小中学生を含めた企業見学・出前授業の実施</p> <p>② U・Iターンの促進に向け、首都圏等在住者を対象とした「南いわてで暮らし、働こう」セミナーの開催</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">○市町村窓口・移住相談会等における移住相談受付数 H29:650回→R4:700回</p> <p>③ 児童生徒等を対象とした建設現場見学会の開催</p>
--	---

令和4年度県南広域振興局の取組方針(案)

【令和4年度の取組方向】

<p>Ⅲ 世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域</p> <p>【基本方向】</p> <p>① 平泉の文化遺産などの歴史文化や食文化などの地域の魅力発信による観光振興</p> <p>② 観光客やビジネス客の受け入れのためのホスピタリティ向上</p>	<p>Ⅳ 米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域</p> <p>【基本方向】</p> <p>① 企業的経営体の育成、収益性の高い産地の形成、活力ある地域づくりの推進</p> <p>② 林業の担い手の育成・確保、低コスト林業による森林資源の循環利用、特用林産物のブランド力回復と販路拡大</p>
<p>1 地域の魅力の発信による交流を広げます</p> <p>【観光振興による交流拡大】</p> <p>① 市町、関係団体等とともに、世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした魅力を体感できる観光コンテンツを造成</p> <p>② 教育旅行やビジネス客等をターゲットにした観光コンテンツの磨き上げや商品化の仕組みづくりを促進</p> <p>③ 旅行市場のトレンドの変化に対応した観光事業者向けの研修会・意見交換会の開催</p> <p>○県南圏域の観光入込客数(延べ人数) H29:1147.4万人回→R4:1173.1万人回</p> <p>【スポーツによる交流拡大】</p> <p>① 市町との連携事業「いわて県南レジェンドランナース」は、新型コロナウイルス感染症及び県南地域のマラソン大会の動向に応じ、見直しつつ開催</p> <p>【道路整備による観光振興】</p> <p>① 県内各地の観光地を周遊する道路整備(釜石遠野線 笛吹峠)</p> <p>○観光地へのアクセス道路整備延長(累計) H29:-m→R4:15,910m</p>	<p>1 企業的経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます</p> <p>【企業的経営体の育成】</p> <p>① 若手経営者の経営改善意識向上・発展に向けた研修会・意見交換会の開催</p> <p>② 新規就農者確保に向けた就農相談の実施や、新規就農者を対象とした研修会の開催</p> <p>○企業的経営体の育成対象数(累計) H29:19経営体→R4:60経営体</p> <p>【産地の育成・強化】</p> <p>[米] リモートセンシング技術の活用、スマート農業技術普及のための実演会や研修会の開催</p> <p>米穀専門店との連携を密にした、品質向上と流通拡大に向けた意見交換会や産地ツアーの開催</p> <p>○米のオリジナル新品種販売数量 H29:1,738t→R4:4,800t</p> <p>[園芸] 大規模園芸経営体育成のための技術及び経営の重点支援、農福連携を志向する農業者と福祉施設のマッチング支援</p> <p>○重点園芸品目の系統販売額 H29:4,580百万円→R4:5,000百万円</p> <p>[畜産] 担い手の経営規模拡大に係る研修会の開催、乳房炎・暑熱ストレス対策のモデル実証</p> <p>【農畜産物のブランド化・高付加価値化、農村地域の活性化】</p> <p>① 地理的表示保護制度(GI)等を活用した他産地との差別化支援</p> <p>② 束稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会と連携した企業との連携協定や地域活性化に向けた取組を推進</p> <p>○農業産出額 H28:974億円→R3:987億円</p>
<p>2 食産業のネットワークを活用し、交流人口の拡大を図ります</p> <p>【食による交流拡大】</p> <p>① 「食のまちづくりチーム」による「産地・シェフ・体験」等のストーリー性を持たせた交流人口拡大のための誘客コンテンツ造成支援</p> <p>○地産地消イベント参加人数 H29:-人→R4:28,800人</p> <p>【国内外への取引拡大】</p> <p>① 釜石港輸出ルートの利用促進による海外販路の開拓</p> <p>② 「食産業クラスターネットワーク」を活用し、経営課題に即した分科会の設置による企業間連携の体制づくりや、個々の企業の経営課題に対応するアドバイザーを派遣</p> <p>③ 管内食品事業者とバイヤーのマッチングに向けたビジネス交流会の実施</p> <p>○食料品製造出荷額 H28:837億円→R3:879億円</p> <p>○商談会での取引成立件数 H29:99件→R4:120件</p>	<p>2 森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します</p> <p>【担い手の育成・確保、ICTの導入等による経営効率化】</p> <p>① 林業の担い手確保に向け、高校生や林業就業者を対象とした森林・林業の職業学習・作業体験会の開催</p> <p>○林業技能者数(累計) H29:163人→R4:210人</p> <p>【未利用資源を含む木材の利用促進・安定供給】</p> <p>① 松くい虫被害材(アカマツ)の有効利用手法の実証</p> <p>② 地域材活用ワークショップ等の開催による木育の推進</p> <p>○木材生産額 H29:5,120百万円→R4:5,200百万円</p>
<p>3 文化芸術を生かした地域づくりを進めます</p> <p>【伝統文化等の魅力発信】</p> <p>① 紙芝居動画(DVD)と「ケロ平」訪問による平泉文化の紹介を通じ、子どもたちにわかりやすく、「平泉」の魅力を発信</p> <p>② 伝統文化や民俗芸能等の魅力発信、文化芸術と触れ合う機会の創出</p> <p>③ 地域の文化財や文化芸術活動の魅力を伝える人材の育成</p> <p>○講習会参加者数(累計) H29:-人→R3:150人</p>	<p>【特用林産品の生産振興】</p> <p>① 原木しいたけの栽培指導・原木の安定供給の支援</p> <p>○乾しいたけ植菌本数 H29:119千本→R4:132千本</p> <p>② 野生山菜等の出荷制限解除に向けた調査と解除後の出荷管理・指導</p> <p>③ 林間畑わさびの新規栽培希望者への講習会の開催や、栽培の手引きの作成・配布、栽培技術の普及・定着のための定期巡回指導等の実施</p>

令和3年度第1回県南広域振興圏地域協働委員会議での委員の意見に対する対応状況等

(11月9日現在)

No.	御 意 見		対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容		担当部	内 容
1	ワクチン接種を進めて、集団免疫を獲得することこそ、社会生活の正常化に向けて大事なことだと思う。振興局については、各市町にワクチン接種が若年層までにいきわたるような各指導をお願いしたい。		保健福祉環境部	ワクチン接種について、今まさに各市町村で、11月末の完了を目指し頑張っていたいただいており、10月3日現在で63.1%(2回目)が終了している状況。県の方でも、市町村のワクチン接種を支援する取り組みとして、滝沢や花巻に集団接種会場を設置してワクチン接種のスピードアップに取り組むこととしている。
2	小児医療、障がい者医療、障がい者医療については医療的ケア児が非常に問題になっている。レスパイト、親御さんが休暇を取れるような施設の拡充に向けて、ありかたについて考えていただきたい		保健福祉環境部	医療体制の整備について、医療的ケア児の家族の負担が非常に多いということで、県立療育センターにおいて、入所及び通所による支援等を実施するなど県の方でも力を入れている。医療的ケア児支援法に基づき、医療的ケア児支援センターの設置や保育所や学校における受入体制の支援等さらに拡充していくために、現場の意見を伝えていきたい。
3	小児科産科の医者を目指す人が少ないことから、そういった方を支援するような奨学金制度拡充し、医師の育成をお願いしたい。		保健福祉環境部	産科や小児科を選択した地域枠養成医師に対する新たな特例措置を行うほか、医療局においても特別貸付枠等を設置しながら、産科等のドクターを目指す方を広げようとしているが、医師のなり手が絶対数として厳しい状況にある。外からの招聘を含めて取り組んでいきたい。
4	介護人材に限られる中、一法人一事業体で色々なことをやるのは難しくなっている。その時に、お互いにマンパワーを貸しあう仕組み、連携できるようなシステムを考えていただいて、効率的に医療介護福祉サービスを提供できるような環境の整備を市町村へ働きかけていただきたい。		保健福祉環境部	介護士も非常に不足している状態になっているので、事業所をまたいだ人の貸し借りの制度化については新しいアイデアということでお聞きした。そのあたりは本庁に伝えて、事業所の要件等の国の仕組みの問題等の絡みを整理しながら進めていければと思う。
5	健康づくりについて、生活習慣病の予防はもちろんだが、岩手県において脳血管疾患で亡くなる方は全国ワーストなので、そういったところに力を入れてもらいたい。あとは、自殺者東北3県トップとなっていることから、やはりゲートキーパー養成を引き続き行ってもらいたいと思う。		保健福祉環境部	脳血管疾患の死亡率が非常に高く、自殺も先日の発表では全国ワースト1となったので、これらについても引き続き取組を強化できればと考えている。保健所としては、ゲートキーパー養成等を市町村と協力しながら引き続き取り組んでいきたい。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
6	ILC誘致をしっかりと行って、国際的なコミュニティを作りながら、最終的には住人皆で地域包括的に支えあえるような互助共助の仕組みづくりを改めてしないといけないと思う。	経営企画部	ILCについて、国際推進チームから準備研究所の提案書が公表され、準備も佳境に入っている。まずは国の方で日本に誘致することを発表してもらい非常に良い機会になっている。振興局としては、ILCの理解促進の取組を進めつつ、また、国外の研究者等が現地に暮らすとなると言語が一番の問題となることから、医療通訳者の養成といった取組を進めている。また、子どもたちにも興味を持ってもらうため、国立天文台と一緒に各市町の図書館でILCと宇宙をコラボした企画展を開催するなど、まず地元の方々にしっかり理解していただくことで、地元の受入体制が整備され、活気のある地域ができると考えており、鋭意取組を進めていきたいと思っている。
7	いわて地球環境にやさしい事業所の普及拡大について、今年になって国としても2050年にカーボンゼロを目指すにあたって、実際県で行っている取り組みとしてまだ足りないと感じている。いわて地球環境にやさしい事業所自体はずっとやっていて仕組み自体が変わってないので、見直さない以上本気度というものも見えないし、事業規模に関わらず全ての事業者が取り組まないと目標には近づけないと思うので、見直しについてよろしくお願ひしたい。	保健福祉環境部	「いわて地球環境にやさしい事業所」については、状況が変わってくれば、仕組みを見直す必要があると思うので、御意見については本庁の主管課に伝えながら進めて参りたい。
8	人材を募集した際、今まではなかったことだが、人材紹介会社の仲介で岩手に移住してきた方が3組いた。この地を離れられない、田舎に戻らなければならない、簡単に移住して仕事を転々とするものではないという感覚がどうしてもあった。今の若い人の感覚は全然違って、自由にどこへでも行ってその場で働く、自分のやりたい仕事を探すということが割と簡単に出来るものなのだなと思った。仕事を探す区域も広い。マッチングが合えば岩手に移住定住する方が出てくる可能性がある。紹介だけではなくて紹介に係る手数料等に対するフォローアップもできればお願ひしたい。	経営企画部	移住定住について、県としては、色々な形で取組を行っており、例えば首都圏での相談窓口を開設しているほか、イベントの形で企業に参加いただいたうえで、マッチングフェアをやらせていただいている。そういったものに、広く色々な企業に参加いただけるよう声をかけていきたい。移住定住は色々な方がいらっしゃるという情報をいただいたので、更に窓口を広げてやっていければと思う。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
9	観光において食は重要なポイントとなってくるが、資料を見ると小さい飲食店に対する支援が見当たらない。例えば鶴岡市では、ユネスコ食文化創造都市の認定をもらって、町全体で小さな飲食店を支えている体制がある。今一番ダメージを受けている小さな飲食店をどうやってフォローしていくのか伺いたい。	経営企画部	「食」による誘客促進を目的に実施している地産地消レストランフェアは、飲食店と地域との連携の中で進めているもので、西和賀、金ケ崎、北上の3地域でやっていたものを花巻、遠野、奥州 に広げるなど、コロナの影響によりやれることが限られる中ではあるが、取組を進めて参りたい。 地域の小規模な飲食店に対する支援については、市町や商工会議所・商工会を通じて家賃補助や支援金の支給のほか、休業補償等についても他県と同様に行っている。なお、地産地消レストランフェアは、食材に地元のものを使っただき、双方の下支えとなる形で行っている。
10	農業の食品ロスについて発言があったが、簡単な問題でないことは理解できる。社協やボランティア団体に寄贈しようとしても、なま物だと受け取ってもらえないこともある。 一方、母子家庭や貧困家庭において一番足りていないものも野菜であり、うまくマッチングできないことにもどかしさを感じているので、その点になにか対策できないか。	農政部	管内の農協では、子ども食堂に規格外品を提供する取組を行っているほか、全農等の組織でも同様の取組を行っており、今後そういった動きが広がっていくと考えている。 《参考》 ※JAいわて花巻 2019年 おおつち子ども食堂（大槌町）に食材提供。 2020年 むくまる食堂（花巻市）に食材提供。 2021年 女性部北上地域支部が北上市社協に食品、日用品を寄付。 ※JA平泉 2019年 青年部が児童養護施設に食材提供。
11	日本全国で、突発的な大雨特に河川関係の災害が多く起きている。日本で最高雨量も更新していることから、その雨量が岩手で降ったとしたらどのような被害が出るのかを想定していただき、弱い場所や地域が出てくると思うので、想定外がないように想定できる最大限のところで計画をしていただきたい。	土木部	基本的には、岩手県個別の雨量の設定はないが、河川整備、砂防、道路に関しても雨量を考慮して設計をしているので、間違いの無いようにしていきたい。
12	通学路が整備されてきているが、段差があるところや、車いすで通りづらいところが見受けられるので、安全に通行出来る道路を整備して行ってほしい。そういう道路であれば安全に避難できるし、人の交流が増えていくのでよろしく願いしたい。	土木部	道路については、パトロールを行っており、最低1週間に1回は、各路線を回る頻度で行っている。お近くの道路で気になることがあるときは、各土木センターに御連絡いただければ、出来ることから進めていきたいと考えている。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
13	<p>人材不足が建設業でも深刻化している。建設にかかわる高校生の就職率も県外に行く方が多いということで、建設業協会の青年部では、建設業ふれあい事業等をしながら、高校生へのPRをしているが、岩手県全体で大規模な建設フェスタの開催を計画する際は、県を含め一緒になって活動したいと考えているので御協力をお願いしたい。</p>	土木部	<p>毎年建設業ふれあい事業を各建設業協会単位で行っているところ。また県南土木の例で申し上げると、完成、供用開始した小谷木橋についても、一関工業・黒沢尻工業・産技短水沢校の設備の方々に現場見学に来ていただいて、興味をもっていただいたので、そういった取組は引き続き継続したいと考えているのでよろしくお願いしたい。</p>
14	<p>資料2の1ページ上段の福祉関係について。「⑤障がい者の自立活動の支援」の項目の中に、防災に関する取組はあるのか。出来れば、防災を入れていただきたい。</p> <p>支援が必要な人たちの理解度、動ける範囲、その程度の差はそれぞれ違うと思うが、この人達に防災を意識させるために、自立活動・自立心を促すような、防災に関係した取組があれば良いと考えている。</p> <p>災害時に効率的に動くためには、「障がいをお持ちの方が防災行動のできる範囲」を、周囲の健常者の人達が知ることが必要になってくる。</p> <p>防災に関してもこれらの理解促進が非常に重要である。</p> <p>もっと身近な市町村、自治会、町内会主催の防災訓練への参加を障がいの方々に促進していく対策があっても良いと思っている。</p>	保健福祉環境部、総務部	<p>県では、援助や配慮を必要としていることを周囲の方に知らせることが出来るヘルプマークの普及に取り組んでいるが、まだまだ普及が十分ではないので、意思表示を伝えるようなツールの普及を進めていければと思う。</p> <p>また、県では、災害発生時における市町村等関係機関との連携を強化するため、地域住民の参加による総合防災訓練を毎年実施している。</p> <p>令和3年度は北上市、西和賀町を会場として9月4日に実施しており、その際、北上市では、避難情報の発令に合わせて福祉避難所を開設し、感染症対策を講じながら要配慮者の避難所の受入れ等の運営訓練を行った。（今回は新型コロナウイルス感染症対策のため住民の参加を見送り、市職員が避難者役となり実施した。）</p>
15	<p>資料4の5ページ、No.15「障がいのある人もない人も地域交流事業」の事業内容に障がい者を含めた防災啓発稼働を含めた交流の促進を入れてはいかかが。障がいをお持ちの方で防災を理解している人はごく少数に感じている、互助を推し進めるのであれば、お互いを理解することが重要になっている。交流の場を設けるのであれば、そこで防災を指導することを考えていただければと思う。</p> <p>その他には、障がいの程度別防災勉強会の開催などを含めて実行していけば、この人は何ができて何が出来ないのか、地域としての防災の取組の促進につなげることができると思う。防災に関してのお互いができることを認識できるきっかけにもなると思う。まずこの事業内容に防災を生かし、普及促進していただきたい。</p>	保健福祉環境部	<p>「障がいのある人もない人も地域交流事業」の事業内容に、防災の観点を加えることについて、良いご意見いただいたと思っている。今後の事業内容の検討の際に加えさせていただければと思う。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
16	<p>福祉避難所の公表に関して、事前公表に向けた今現在の県の取組についてお聞きしたい。公表することで一般避難者が殺到することが懸念されるのであれば、福祉避難所が指定されている意義を住民に徹底的に周知すること、その方法が必要かと思う。なぜなら、障がい者が避難を躊躇う恐れがあるからである。災害がいたるところで発生している現状を考えれば、障がいをお持ちの方々に安心感を与え、早期に避難させるためにも、早めに公表する必要があると考える。</p>	保健福祉環境部	<p>一般の人が殺到することから福祉避難所の公表については消極的だったが、公表すべきという意見が強くなっていることは承知している。そのあたりを含め確認をしながら、御意見を県庁の方に伝え、進めていければと思う。</p>
17	<p>移住定住のような分野に関しては、数よりも質が大事。移住・定住したい人の一人一人の自己実現や生き方を担保する、制限をしないような地域ということを作っていく必要があると思っている。地域のポテンシャルと個々人の希望のマッチングがうまくいっていないのかなという実感がある。</p> <p>例えば移住したい人にでも、農業をしたい人、カフェを開きたい人、IT系で勤めたい人、様々いる中で、「この人にはこういう地域がいいんじゃないか」「こういう人を紹介したいな」「この物件だったらいいんじゃないか」そういったマッチングを、地域のストーリーと個人個人のストーリーの両方をかみ砕いて上手くマッチングするコンシェルジュのような人材を育成していく必要があると思う。アフターコロナあるいはILCの誘致等を考えても、いろんな地域から来る人に対するマッチングを行うコンシェルジュを官民共同で育てていく必要があるのかなと考えている。</p>	経営企画部	<p>マッチングに関するコンシェルジュについては、非常にいい話だと伺った。ここまでのことはしていないのが現状であるが、これから交流人口を増やすためには、個々のニーズにもお答えしていかなければならないという話だとお聞きした。コンシェルジュの設置は直ちにはいかないのかもしれないが、こういう役割を担える方がいないかなど、関係者にも検討いただきながら考えていければと思う。</p>
18	<p>多様な働き方の中で首都圏・関西・福岡などでは若手で起業する人が増えてきているけれども、北東北三県は全国でも起業する若者の数が最下位に近いので、起業の支援にも力を入れていただきたい。資金調達や業者の紹介といったものもあるが、大事になってくるのは、①人脈、②販路の確保。人のつながりに関しては、地域の外も含めてつながる仕組みを作って、販路に関しても外に広がっていくような販路の構築も含めた支援をしていただければと思っている。</p>	経営企画部	<p>起業家支援については、委員御指摘のとおり人脈・資金・販路が大事だと認識しており、昨年度設立された「岩手イノベーションベース」の勉強会という形で進めさせていただいている。こういった場で各地域の情報を紹介できれば関係人口拡大にもつながっていくと思うので、関係情報の提供、併せて働くことや住むことに関する情報を提供させていただきたい。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
19	<p>関係人口の拡大について、岩手県でもセミナー等を行っているが、単発に終わるのではなく、そこから派生する有志のつながり、一種のファンクラブのようなものに成長していく必要があると思う。関係人口は非常にぼわっとした概念だが、今コロナの時代に関わり方が多様化していて、色々なニーズに対応できるように、例えば、サテライトオフィス、コワーキングスペース、オンラインのツアーなど、様々な関わり方を推進出来るように、事業者同士の連携も強化していただきたい。併せて、空き家の活用も重点を置いていただきたい。</p>	経営企画部	<p>関係人口拡大については、県南の事業としては仙台圏の学生さんたちや社会人の交流に関するワークショップを開いていて、委員がおっしゃるとおり岩手のファンをつくるような形の事業をしているところなので、これからも広げていきたいと思っている。</p>
20	<p>岩手県において、講師業、講演業、司会、イベントといった、知的サービス業の業界は単価が都市部に比べてかなり開きのある業界であり、そういった業種で食べていくのは難しいというのがある。知的サービス業を志す人は、首都圏や仙台に出でいってしまう中で、やはりそういった方々は地域のPRに重要な人材でもあるし、そういった方たちへの支援があると県南での働き方の多様化につながっていくと思う。</p>	経営企画部	<p>詳細は把握していないため、関係者の皆さんに伺いながら、何か支援できることがあれば考えていきたい。</p>
21	<p>子どもたちへの「こんなに面白い大人がいるんだよ」という紹介の機会を多く作っていただきたいのと、子どもたち同士の交流、他の地域の、全国他の都道府県や海外含めて、ZOOMなども普及しているので、子どもたち同士の交流などもやっていけるといいのかなと思う。</p>	経営企画部	<p>小中学生向けに地域企業で働く若手社員を講師にした出前授業や、高校生向けに経営者や若い先輩方の話を聞く会などに取り組んでいる。様々な機会を通して子どもたちに知っていただけるよう、情報発信していきたい。</p>
22	<p>関係人口の取組について、サテライトオフィスやワーケーションなど働き方が多様化しているなか、田舎に滞在して仕事を中長期的にやっていくような動きもある。</p> <p>今、ワークとライフのボーダーがあいまいになってきており、午前には仕事をして午後に遊びに行くような働き方も増えている中、働き方の多様化と観光が繋がっていけばよい。</p> <p>岩手は自然や歴史文化の点では非常に良いものがあるので、今までの通過型観光だけではなく、滞在したい人やお試しで住んでみたい人に向けたアクティビティを提供することが必要である。</p>	経営企画部	<p>ワーケーションを含む滞在型観光や観光の多様化について、先進地である八幡平市の方を招いた講演会を実施したり、地域の観光関係の方に勉強会に参加していただいたりすることによって、みんなで考えていこうという動きもあるので、そのようなことも大切にしながら進めていきたい。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
23	平成29年に開催された南いわてくらしセミナーに、話し手側の方で参加させていただき、こんなに岩手に興味を持ってきている人がいるのだと感じたが、実際はお話だけで終わった感じがあった。西和賀も今、若い人や西和賀に移住してくる人が増えてきていて、そういう人たちに話を聞くと、ちょっとした不安なことなどを相談する人がほしいといっていたので、例えば、今後移住したいと考えている人達向けに、相談に乗ってもいいという人達を事前にリストアップして、そこで今後に繋げていけるようなつながりを作ることができれば、岩手に移住してくる人達もやりやすく出来るのではないかと感じた。	経営企画部	相談者のリストアップという発想は非常に大切だと思うので、参考にしながら、セミナーを膨らませる形で企画立案できればと考えている。
24	子育てに関して、西和賀には子育て支援センターがないという話をしていたが、若いお母さん達や移住してきた方たちが、自分たちで出来ることをやっとうというので、そういう場所(子育て支援センター)を作り始めて少しずつ始めているところ。西和賀町は一人暮らしのお年寄りが増えていて、どうしても介護と子育ては別にされがちだが、子どもの分野だけとか高齢者の分野だけではなく、今後何か一緒にまとめてできる場所が出来ればよいのかと思った。	保健福祉環境部	これまでは、子どもの施策、高齢者の施策、障がい者の施策それぞれいわゆる縦割りでできていたが、介護職が足りないということもあり、高齢者の事業と子供の事業を一緒にやるような施設もできるようになってくるので、市町村と情報共有を進めながらできればと考えている。
25	岩手県の教育関係と工芸や文化の担い手になっている企業との交流会を行いたい。製作体験をすとなれば費用のサポートもいただき、まずは県内の子供たちや学校関係者に県内の文化などを知ってもらいたい。	経営企画部	北上川流域ものづくりネットワークでも、ものづくり体験を行っている。 県南エリア伝統工芸協議会などの関係者と協議を行う等、実現に向けて検討を進めたい。
26	可能であれば県内の各種記念品などを我々に発注をかけていただけると、経営の土台づくりや雇用の創出などに繋がると思う。	経営企画部	記念品の発注に関しては難しい部分があるため、目にとまるような良いものを一緒に開発・提案していければと思う。ルールの範囲内でPRの機会を増やしていければと思う。
27	廃校などを使ったものづくり学校の提案について。国内外を問わずものづくりをしたい若者やデザイナーがいると思う。伝統工芸等が県南にかなり集まっており、環境があるため、そのあたりをうまくセッティングする場(事業者登録や宿泊等)として廃校が使えればと思っている。 先進地として、新潟県燕三条市などが芸術大学と取組を行っているため、視察をしていただけると助かる。	経営企画部	廃校を使った取組に関しては非常に面白いと感じるが、関係機関が多岐にわたるため、今後先進地視察も含めて情報収集に努めていく。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
28	<p>海外との取引強化について、人口減少とともに商品の流通先も狭まってくるかもしれない中で、世界との取引は必然になってくる。Webを活用した海外バイヤーとの折衝や展示会などの機会をいただけると助かる。</p> <p>ガンダムとのコラボ商品、ワンピース作者に渡す記念品、スノーピークとの商品開発など、伝統工芸の今までのイメージにないデザインをしたり、おしゃれなものを作ったりしたい県外の企業も増えている。我々の取組を発信することなども五感市とともにこれから一緒に考えていただけると非常にありがたい。</p>	経営企画部	<p>世界への発信については、五感市も含めて今後他地域とのコラボなどを一緒に考えていければと思う。</p>
29	<p>若者の就業意識に関して、ジョブカフェでキャリア教育に力を入れており、振興局の就業支援員もいてシステム化されているため、高卒の新採用に関しては、100%に近い方々が就業できていると思う。</p> <p>ただ、そこにのらない、進学や就業をしていない方も相当数、県南広域圏にもいる。中学校の不登校生徒も毎年増加をしており、その増加傾向に伴い対策を行っている。令和2年度から15歳～49歳までが対象になり、国の働き方改革で就職氷河期世代の支援も国として大きな課題となっているということで、主に40代を対象に取組を行っているところ。</p> <p>そのあたり、岩手県の状況について知りたい。また、具体的に県南広域で取組はあるのかについてお聞きしたい。</p>	経営企画部	<p>年齢別の支援が必要な状況については、それぞれの地域の詳細についてはわからない状況である。</p> <p>生徒さんは一人一人異なる事情があると認識している。県南地域の就業支援員は、早い段階から面談をする等、就業支援の中で状況をつかみ、学校の先生方とも情報共有しながら、場合によっては保護者の方も交えながら相談し取り組んでいる。就業支援員は出来るだけ生徒や学校に寄り添いながら進めている。</p>
30	<p>発達障害や精神障害、いじめ等があったて働けなくなったなど、働けない方々の要因はかなり多様化している。実際働いてみて、これだったら自分にもできそう、やってみたいという体験が有効に活用されるものである。我々も1日ジョブ体験や職場の1日などを県の委託を受けながらやらせていただいている。</p> <p>職場の受け入れも限定的になってしまっていて、なかなか企業側も難しい状況。ハローワークでも応募する前にまず企業見学をしてからの方々が増えていることを考えると、企業でも見学ができる場所が増えれば今まで活用できなかった人材も活用できるかなと思う。企業の理解や意識の改革も必要なのではないかと思っている。</p>	経営企画部	<p>学卒者以外を対象とした応募前の企業見学の実施について、企業の人事担当者を対象とした研修会等の機会を通じて企業の理解を図って参りたい。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
31	切れ目ない支援について、学校教育と就職支援の連携も今年の1月からできるようになった。就職も希望しておらず、進路も決まっていない卒業予定の生徒さんは、学校に在籍したままサポートセンターの支援を受け入れるようになったので、働けない若者がどこで何をしているか分からなくなる状況にならないように気をつけながら、一緒に就職に気持ちが向くようにしていきたいと思っている。従来のキャリア教育のみならず、そのあたり意識をしてもらえればありがたい。	経営企画部	学校との切れ目のない支援に関して、中学生の職場体験による地元定着の取組を考えているが、延長線上で企業さんにも理解を深めていただくことに努めていく。 今年1月からの就職支援と学校教育との連携についても、就業支援員を通じて、該当の生徒さんに必要な情報を提供しており、引き続き留意して参りたい。
32	地元でお子さんと仕事について話をしていると、非常に一生懸命聞いていただいたり、質問していただいたりして、環境的にいいという実感をさせていただいているところ。 キャリア教育サポーターの皆さんとお話をしたときに、せっかく地元がいい企業、ものづくりをしる人がいるが、いざ実際に就職するとなると親御さんは大手のところに勧めるという話がある。 伝統工芸文化を継承するために、職場への就職の斡旋ですとか、地元の頑張っている企業さんへの働きかけがもっとあった方が良くはないかと思う。	経営企画部	企業への就職支援の取組の中では、これまで、例えば黒工の専攻科で地域産業では、4月から20数社の企業の経営者の方々と取組を行っているところ。それを専門高校でも取り組んでいくことで、できるだけ地域の中小企業の方々を交えながら、生徒さんに地元を知ってもらう取組を始めたところである。 工場見学にあたり、学校の希望に応じて南部鉄器や秀衡塗など伝統工芸に携わる企業も含めて紹介しており、地域企業を広く知る機会が提供できるよう努めている。
33	高校を卒業してすぐ地元就職することをテーマとして今回挙げているが、新型コロナウイルス感染症が終息した後に、いざ外国との交流がまた始まったときに、地元でそのまま仕事をされるというよりは、一旦県外に出て、グローバルな知識を身に付け、また地元に戻って、経験を伸ばし地元を活性化していただくという働きかけも将来の世界に向けての岩手の未来を切り開く地域という部分でいうと、人材育成の面で1つあるのではと思う。	経営企画部	一旦県外に出て戻ってきていただくのは、人材育成の取組ではなかなか難しいところだが、県外での経験を踏まえ県内で活躍する方の話も出前授業でも取り入れられるように努めたい。
34	人材不足でなかなか若手の従業員が入ってこない。60代位の社員が全体の35%位になっている。国や県の制度を使いながら、仕事を続けていく方向性を引き続き県のほうにご指導いただいて、高齢者の方々と女性の皆さんの働く長く働いていただけたところをサポートしていただけたらありがたいと思う。	経営企画部	高齢者や女性の働き方に関しては、就業支援を行う中で、企業を求人情報等の情報収集のため訪問しており、その中で制度についてのチラシをお配りする等、話題に出して知ってもらうことを続けていきたい。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
35	私も一度地元を離れ、勉強して戻ってきた一人であり、「離れてその良さを感じた」という点もあった。東京で学生時代を過ごしたが、地元の凄さを改めて感じて戻ってこようと思った。高校を終わってすぐに地元で活躍できる人材も大切だが「地元に戻りたい」と思ったときにきっかけをつかむことができる仕組みも大切である。	経営企画部	Uターンについて、人材育成の取組の中で地元の企業を知ってもらい、住むことと同時に働くことにも関心を持ってもらえるように取り組んでいきたい。
36	コロナ禍で観光が大打撃を受けており、イベントもことごとく中止になっている。その中でも何かできることを考え、現在SNSに力を入れている。以前からやっているFacebookに加えて、5月からInstagramも初めており、平泉に来ていただいた方に何かしら印象を残したいという思いでやっている。その中で県南広域振興局のケロ平の画像もアップしており、毛越寺の中でも2位くらいの閲覧数になっているので、岩手県内のものを使ったPRも大事だと思う。 いざ平泉に行ってみようと思ったときにスムーズに行けるシステム、例えば、点々と存在する岩手の観光地をつなぐシステムなどがあると良い。一関にDMOもあるので、そういったところを活用し、いざ観光に来るとなったときに動ける体制づくりが必要である。	経営企画部	ケロ平について、どんどん活用してもらえるように積極的に貸出を行うなど、効果的な観光物産情報の発信につなげていきたい。 観光地をつなぐシステムについては、県南及び沿岸圏域の市町、観光・教育旅行関係団体と連携した教育旅行連絡会議を開催するとともに、モデルコースの設定や教育旅行担当教員の招聘を行っている。さらには県観光・プロモーション室や県観光協会とも連携しながら、県内の周遊促進を図っていきたい。
37	今までは平泉にお客さんが来てくれて当たり前だったが、SNSの普及により全国各地の埋もれていた観光スポットが見えやすくなった。胡坐をかいているのではなく積極的に取り組んでいきたいと思うので、お力添えをお願いしたい。	経営企画部	アフターコロナに向けた取組について、沿岸と県南の周遊や近場観光など、SNS等も活用しながら取組を進めてまいりたい。 またコロナ収束後も見据え、旅行エージェントとも連携し、観光コンテンツの造成に向けた取組も行っていきたい。
38	林業に関しては、平泉の観光についてもかなり関わってくる。この冬、県南地域は大雪に見舞われ、特に毛越寺も、松の木が折れてしまい、伐採をしなければならなくなった時に、人材がなかなかなくて、なかなか撤去できないということもあった。実際来ていただいた方は、70才を超えた方たちで、一生懸命切って運んでくれた。そういったことは文化財を守る点でも必要になってくるので、ぜひ、進めていただきたい。	林務部	今回の大雪でアカマツが相当折れたが、その撤去作業が順調に進んでいないと伺っている。松くい虫に関しては、今回、倒れたアカマツに松くい虫が産卵したとしても、来年の6月までに駆除すれば、それが新たな被害の感染源になることはない。秋以降、しっかりと対策が取れるように事業化されずると聞いているので安心していただきたい。

No.	御 意 見		対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容		担当部	内 容
39	<p>観光にとっては食も大事であると思っている。地域の農業をやっている人たちと飲食店をうまくつないでいただき、もう少し、地産地消をアピールしていただけると、もっと良くなると思っている。平泉町だと旬の野菜を使った「きらめき野菜デー」をやっていて、地域の飲食店と農家が繋がって、例えば、今週はトマトの週間として、町産のトマトを使った料理を提供するとかやっていたり、毛越寺の隣の小学校では給食の放送で、地元の食材の説明を行っていたり、そういった取組も大切だと思うので、今後も続けていただきたい。</p>			<p>県南広域振興局では、飲食店の収益向上と県南地域食材の魅力発信を図るため、平成30年度から、北上市・西和賀町・金ヶ崎町の3市町において地産地消レストランフェア「旬彩ごほうびフェア」を開催している。</p> <p>4年目となる今年度は、花巻市・遠野市・奥州市を加えた6市町29店舗が参加して、10月の1カ月間開催し、6市町を中心とした岩手県産の旬の食材を使用したメニューを提供することにより、県南地域食材の一層の魅力向上と「食のまち」づくりにつながる誘客コンテンツの育成を行っている。</p> <p>また、市町の取組としては、奥州市産の食材を一定割合使用している飲食店を「食の黄金店」と認定しPRしたり、奥州市の農家と飲食店の直接取引を支援し、地域全体の活性化を図る「農家×飲食店トライアルイベント」を開催している。また、一関市では、飲食店等において行う「いちのせきブランド夏秋野菜フェア」等、地産地消を推進する独自の取組も行われている。</p> <p>旅の目的が「食」という方、食を通じて、地域の農業や文化を求めお客様も増えてきており、産業分野を越えて、しっかり、地域の魅力を伝えるような取組も引き続き行っていきたい。</p>
40	<p>シェフとの交流イベントや、取引拡大に向けたアドバイザー派遣など振興局の事業を大いに活用させていただいているが、なかなか次につながらず継続しないことも事実である。フェア等で出会いがあっても、その後のつながりにまで発展していかない。</p>		経営企画部	<p>取引の拡大について、商談の深い部分まで立ち入ることはなかなかできないが、アドバイスやセミナーの開催によるスキルアップなどによってフォローさせていただきたい。</p>
41	<p>情報発信が大事だとよく言われるが、ターゲットが明確でないものも多い。ストーリーがなく説明で終わってしまっているなど、見た人が共感できないコンテンツが多いように感じている。</p>		経営企画部	<p>情報発信については、ターゲットを含め、背景にあるストーリーまでも伝えることができるよう、部局間での連携等によって効果的に行ってきたい。</p>
42	<p>コロナによって県内に目を向けることが多くなり、地産地消の大事さをあらためて感じた。私は、県北生まれで、盛岡に住み、そして仕事で花巻に通っているが、県南にはいいものたくさんあるように思う。同じ岩手に住んでいても感じ方が違うので、それぞれいいものを持ち寄って県南地域を盛り上げていければと思う。</p>		経営企画部	<p>地産地消について、県南にいいものが多いという評価もいただいているので、その食材の魅力発信と利用拡大に向けた取組を、ほかの部局とも連携しながら進めていきたい。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担 当 部	内 容
43	<p>文化会館を含む文化施設では、コロナの影響でイベントが中止になるなど、集客率が50%程度まで落ち込み大打撃を受けており、報道ではそのような点が注目されるが、サークルによる利用者も感染を恐れて利用しなくなり、団体自体が解散となってしまったケースも見られる。</p> <p>趣味が多様化しており、若い人が入ってこないため、サークルの会員数が少なくなってきたりしている現状もあり、コロナが終息しても前のように活動できるか心配している。</p> <p>サークル以外でも、伝統芸能、郷土芸能も活動ができなかったり、また発表の場がなくなったりしているため、発表の場を設けるなどやりがいを持たせることができないかと思っている。</p>	経営企画部	<p>昨年度の県南圏域の文化芸術活動支援ネットワーク会議では、文化施設等におけるコロナ対策をテーマに解決策を考える研修会を実施し、感染対策を踏まえた文化芸術活動の促進に取り組んでいるところ。</p> <p>また、伝統芸能、郷土芸能の発表の場がないということについて、地域のお祭りが中止になっている中、やり方を工夫して小規模に発表の場を作っている事例もあるので、そういった事例を紹介しながら、本庁などと連携して取り組んでいきたい。</p>
44	<p>いろいろな分野で出前講座という話がでていますが、私には小学校の子どもがおり、親子レクもコロナの影響によってスポーツではなくSDGsについて親子で話し合うというイベントをやった。出前事業の内容も、ILCや平泉など意外と大人も知らないような内容を親子会行事等で実施すれば、親世代も興味をもってイベント等に参加するようになると思う。</p> <p>イベントに行く行かないも、意外と親の意見で変わってくるので、親の関心を引くような方法でやっていくことが必要だと思う。</p>	経営企画部	<p>出前事業について、学校単位でもいろいろやっていると思うが、ものづくり関係について、今年1月に「ものづくり体験教室in工場」を募集したところ、50人程度の申込があった。親子で何かを体験するという機会が減ってしまっていることを受け止めて、今年も夏休みや冬休みに事業を実施したい。</p> <p>親御さんをターゲットに宣伝することについては、ILCや平泉などの話題もあるので、いただいたアイデアを踏まえて検討していきたい。</p>
45	<p>ガイドのスキルアップについて、観光ガイド研修会の開催とあるが、ガイドンス施設の開館も控えており、開館すれば観光客が増えたり、認定にならなかった遺産の追加登録に向けた動きが活発になるなど、平泉の観光がますます注目されるようになるので、一人のガイドとして勉強していきたい。</p> <p>また、外国人のお客様向けのガイドは難しく、多言語表記の看板やパンフレットも用意してもらっているが、もっとスキルを磨くために、グローバルに対応できるガイドを養成する研修会について御助力いただければと思う。</p>	経営企画部	<p>地域の観光資源の引き出しを増やすこと、またグローバルなガイドの研修会についても進めて参りたいと考えており、これまでも団体向けのインバウンド個別研修を行ってきたほか、県観光・プロモーション室や県観光協会の外国人観光客の受入支援の取組とも連携していきたい。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
46	友人に頼まれナスの収穫のお手伝いをしたが、傷がついて商品にならないものも多く、3分の1くらいは市場に出ないで処分してしまうようである。そういった商品にならない農作物を再利用する取組、例えば給食の材料にしたりするなどロスを減らす取組も必要だと考える。	農政部	農産物の規格外品の廃棄について、全てを解決することは難しい。 農協も加工用として活用しているほか、訳ありりんごの販売や災害時等に特別規格を設けて販売するなどの努力をいただいているが、まだまだ努力しなければならない点はある。 農業と食品製造業の連携や、飲食店との協力により、せっかく作っていただいた作物のロスを減らす取組を引き続き続けて参りたい。
47	菓子工業組合との試験的な取組として、一次加工品の製造に地元農産物を使って取り組むことになった。これに当たり、一番懸念しているのは、価格の面。やはり、一次加工品を使って製造している食品事業者の方々は、規格がそろって安いものを使った方がコスト的にはいいわけで、地元の農産物を使うとどうしてもそれが実現できず、なかなか進まない。難しいかもしれないが、例えば、買い入れ業者さんの方に、地元の農産物を買入れるときの補填などの支援だとかをやってみて、反応をみるということがあってもいいのではないか。 地元の農産物を利活用して食品加工している方が、食品表示の改正によって、表示が厳しくなって、その表示ができないから販売ができなくなったという話が聞こえてきている。地元の味を受け継いでいくのも、地元の食品製造業、食品加工業の役割だと思っているので、地域の食文化を残していく取組に対しても、何か地域全体で取り組んでいけたり、そういったものに対する支援があるといいと思っている。	農政部	菓子を含め、食品製造向けの原料となる農産物の生産、及び一次加工品の生産については、実需者ニーズに沿った品質、価格の原料を納品する必要がある。近年県内においても、加工用品種の導入や加工向け低コスト生産により、収益性の高い農産物生産・一次加工に取り組む生産者や産地も出てきているので、参考にしていきたい。 また、食品表示法は、食品衛生法、JAS法及び健康増進法にかかる食品表示を一元化し、平成27年に制定した。以降は、経過措置として、令和2年4月から添加物やアレルギー、期限等の「衛生事項」が義務化され、令和4年4月から原料原材料表示が義務化され、罰則の対象となった。 なお、具体的な表記方法については、環境生活部県民くらしの安全課または最寄りの保健所に相談いただきたい。 食文化については、ここ20～30年前から、地域の女性の方々が地元の味を受け継ぎ、食文化を残していく取組を行ってきたが、それがいま年齢とともに止めざるを得ないような状況にあると聞いている。 ぜひ、そこを繋いでいくことが重要だと考えており、食の匠制度等を活用し、技術の継承に向けて取り組みを進めていきたい。
48	企業的経営体との意見交換会も実施されるようなので、その中で、大規模経営体同士の交換耕作など、離れた土地を交換していく協議がなされるような支援があるといいと思っている。水田を畑地化するとか、地域全体での土地利用計画も大規模経営者の方々に意見交換とかしていけると夢のある農村地域ができるのではないかと考えている。	農政部	農地の関係については、いま団地化が進んでいる中で、もう一段、活用できるような仕組みが必要だと思っている。 集落営農法人の情報交換会も今後予定しているが、単に意見交換だけでなく、生産基盤に踏み込んで繋がりを作っていくことも今後検討していく必要がある。 長期的視点に立った法人運営については、国の助成制度を踏まえた対応が必要であり、難しい状況であるが、農地の効果的な活用とも関連するので、全体としてどう進めていくかということ、地域農業マスタープランの実践も踏まえながら市町村を含めた検討が必要だと思っている。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
49	<p>国の方で、人、農地プランの実質化に向けて、3年くらい前から進めてきており、市町村の方で、実質化されていないところは、コロナ禍の中で進まないでいるけれども、話し合いをしているところだと思ふ。この話し合いをすることによって、実質化されたとみなすこととなっているので、ぜひ、これをスタートにして、話し合いで終わらず継続して、本当に地域、今後、どういう形で農業・農村をどうやっていくかというところを進めていっていただけるように支援・指導していただければいいなと思っている</p>	農政部	<p>単なる制度の手続きではなくて、地域の農業をどう位置付けるかが非常に重要。ぜひ、そういう考え方で、地域のプランの達成に向けて進んでいければいいと思っている。</p> <p>プランの実践については、市町村、農業委員、JA等と連携しながら、農地集積・集約化の取組を支援していきたいと考えている。</p>
50	<p>基盤整備の圃場整備については、計画的に実施されていると思うが、期間があまりにも長い。一地区の工事に7年から10年かかっているので、計画をもっとギュッと短くした中で実施していきたい。ただでさえ、農家の平均年齢が68歳と言われているので、ぜひ、工期を短縮していただけるような努力をしていただきたい。</p>	農政部	<p>ほ場整備については、生産コストの低減や高収益作物の導入の促進等に向け、着実に進めることが重要である。</p> <p>このため、ほ場整備の実執行予算については、昨年度を上回る予算を確保しましたが、地域の皆様から多くのほ場整備の要望が寄せられていることを踏まえ、今後とも必要な予算の確保に向け引き続き努力していきたい。</p> <p>なお、ほ場整備は、地域の熱意やまとまりが円滑な事業推進に繋がることから、今後とも御協力をお願いしたい。</p> <p>□</p>
51	<p>米のブランド化について、銀河のしずく、金色の風など、県やJAで一生懸命やっただいてはいるが、いまいち、農家では、どこを目指しているのか分からないでいる。毎年、その都度、品種を変えたりもしている。例えば、昨年登録された「つきあかり」とか、いい品種だとなれば、どんどん取り入れているが、なかなか、銀河のしずく、金色の風は、どこを目指しているかわからないので、どこをターゲットにしているか、どういう形で売っていくのか、農業経営している私でも分かりかねる、そこを説明していただけるとありがたい。</p>	農政部	<p>米のブランド化について、「銀河のしずく」はデビューから6年、「金色の風」は5年と経っており、全農を經由し卸に販売している。</p> <p>ある一定の高価格帯で取引されるよう、高品質・良食味米生産に向け、県が栽培に関して基準を定め、県の米作りを牽引するようなブランド米として育成していきたいという思いで進めてきている。</p> <p>その中で、「銀河のしずく」は県内外の幅広い層から支持される米として、食味ランキング評価など高品質・良食味をPRし、家庭用のほか中食・外食向けとしている。また、「金色の風」は、全国に誇る最高級ブランドとして、米穀専門店や百貨店等で販売し、こだわりある消費者向けである。</p> <p>まだまだ整理しきれない部分もあるので、そこは生産者の皆さん方、全農、流通の卸関係者などと、しっかり一緒になって、ブランド米を作っていくということに努めていかなければならないと考えてる。</p>

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
	内 容	担当部	内 容
52	<p>林業と呼ばれる職種で一番困っているのは、人材不足。画期的な手法、機械化、岩手に特化した林業機械の開発をしていくことが必要。幸いにして当地方には、林業機械メーカーがあるが、ただ、自分たちが開発して売るということで、ちょっと現場の声が入っていない。現場の声が入っていないということは、こういった機械があればいいという意見が採用されていないと感じる。こういう状況なので、現場から意見を出してもらって、提案していくという方法ができないかと思っている。</p>	林務部	<p>岩手に適した機械の開発について、岩手県の地形、様々な条件の違いもあり、岩手に合った作業の仕方もある。道路を使って木を出す方法もあれば、架線を使って木を出す方法もある。現場条件に即した機械化について現場の声を聞いて、開発する地元の機械メーカーに伝えていきたい。</p>
53	<p>松くい虫被害に、当地方ではかなり前から浸食されている。県の指針として6月から9月までは、アカマツは一切伐採してはダメとなっている。実は、宮城県、秋田県では、アカマツの伐採規制は、ほとんどない。岩手県だけ。確かに岩手県は、南部アカマツの産地だから、分らない訳ではないが、もう、これだけ松くい虫被害が進んでくると、さっさと切ってしまって、売れるものは売るというのが私の考え。バイオマス発電とかもあるので、チップ化して持っていけば移動の禁止の対象にならないので、そういう方法を進めていければいい。いま県南部、盛岡から南の地域、大船渡から南は、すべて規制の対象になっている。規制しても、去年まで健全だったアカマツが今年は赤くなっている。規制をとり払って、通年で伐採できる方向でやってほしい。</p>	林務部	<p>松くい虫被害への対応について、6月から9月まで伐採規制があるということだが、この期間にアカマツを伐採して、残材が現地に残ると、そこに松くい虫が飛んできて被害が拡大するおそれがあるので、虫が飛んでいる期間は伐採をしないというルールになっている。ただし、現状では被害が蔓延しているの、かつてのような方法で被害を抑制することが難しくなっていることも事実。残っているアカマツを有効に活用して、被害を受けにくい健全なアカマツ林が出来れば被害の拡大は防ぐことができる。ナラ枯れの場合も同様で有効活用して被害対策を行うことは考え方として正しいと思う。このルールは県で一本化したものなので、県南だけ外すという訳にはいかないが、皆さんの意見を踏まえながら、本庁にも情報を上げて検討していきたい。</p>